

338-A43ウ



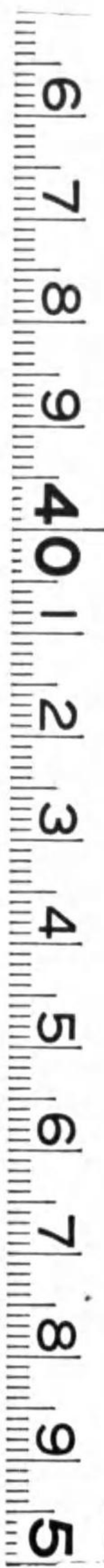
+1200800297222+

N<sup>o</sup> 80/24

文學士 添田 壽一 著

# 外國貿易論 完

東京 博文館 藏版



# 始



外國貿易論目次

上篇本論

- 第一章 總論
- 第二章 商業ノ種類并ニ外國貿易ノ起原
  - 第一節 商業ノ類別
  - 第二節 外國貿易ノ起因
- 第三章 各種ノ外國貿易利益厚薄ノ比較
  - 第一節 結局均一ニ歸スヘシ
  - 第二節 均一ヲ妨クルモノ
- 第四章 外國貿易ノ利害得失
  - 第一節 外國貿易ノ利益
  - 第二節 外國貿易ノ弊害
- 第五章 外國貿易ノ消長

第一節 外國貿易ノ障害物  
 第二節 外國貿易ヲ幫助スルモノ  
 下篇附論

第一章 國際價格  
 第二章 損益ノ負擔  
 第三章 賣價ト需用トノ關係及ヒ掛引  
 第四章 外國貿易ニ於ケル運賃ノ負擔

參考表

第一表 各國ノ貿易總高  
 第二表 各國ノ貿易人口割  
 第三表 外國連年輸出入總高  
 第四表 我國ノ主要ナル取引キスル國名及ヒ取引高  
 第五表 輸出入物品元價内外商別

外國貿易論目次終

外國爲替論目次

第一章 外國爲替ノ目的及ビ起因  
 第二章 爲替手形ノ種類  
 第三章 手形ノ價ノ變動  
 第一節 彼我貸借ノ差ヨリ來ルモノ  
 第二節 手形期限ノ長短ヨリ生スルモノ  
 第三節 手形ノ信用ノ厚薄ニ因ルモノ  
 第四節 彼我貨幣制度ノ差ヨリ起ルモノ  
 第五節 米國ノ例ヲ以テ變動ノ原因ノ複雜ナルコトヲ示ス  
 第四章 爲替上ノ救治策

附 録

- 第一表 我國紙幣ノ金銀ニ對スル連年ノ歩合ヲ示スモノ
- 第二表 我ガ外國爲替相場ヲ示スモノ
- 第三表 物品ノ輸出入ト正貨ノ輸出入ト殆ト全ク逆ニ相伴フ事ヲ示スモノ

外國爲替論目次終

貨幣論目次

- 第一章 貨幣ノ職務
- 第二章 貨幣ヲ使用スルノ結果
- 第三章 貨幣ノ種類
- 第四章 貨幣——貴金屬
- 第五章 貨幣ノ使用價格及ヒ交換價格
- 第六章 貨幣ノ交換價格
- 第七章 一國民ノ要スル貨幣ノ分量
- 第八章 同上(繼承)
- 第九章 貴金屬ノ交換價格ノ均一ナルコト
- 第十章 同上(繼承)
- 第十一章 不ノ變物價ノ度量

第十二章 勞力ヲ以テ量ラレタル交換價格

第十三章 貴金屬ハ物價ノ最上ノ度量ナル事

第十四章 造幣ノ制度

第十五章 造幣ノ費用

第十六章 本位論

(一) 複本位

(二) 複本位ノ損害

第十七章 國際間ノ貨幣

(一) 國際貨幣ノ不利

(二) 貨幣制度ノ衝突

第十八章 交換ノ具

(一) 代表貨幣

(二) 小切手及爲替交換

(三) 代表紙幣ヲ使用スルノ理由

(四) 利子ヲ節略スル事

第十九章 約束手形ノ性質及種類

(一) 特定預リ證書

(二) 一般預リ證書

(三) 特定證書ト一般證書トノ間ノ差

(四) 約束手形

(五) 代表貨幣循環ノ原則

第二十章 紙幣ヲ發行スルノ方法

(一) 單純預リ方法

(二) 一部分預リ方法

(三) 最低額準備方法

(四) 比例準備方法

- (五) 最多額發行方法
  - (六) 彈力的制限方法
  - (七) 證書準備方法
  - (八) 不動產準備方法
  - (九) 外國爲替方法
  - (十) 自由發行方法
  - (十一) 對金方法
  - (十二) 歲入支拂ニ依テ交換スルノ方法
  - (十三) 延期交換方法
  - (十四) 不兌換紙幣發行
- 第二十一章 信用證書
- (一) 銀行手形
  - (二) 小切手

- (三) 小切手ノ種類多シ
  - (四) 爲替手形
  - (五) 利子ヲ有スル所ノ證書
- 第廿二章 貨幣ノ定義

貨幣論目次終

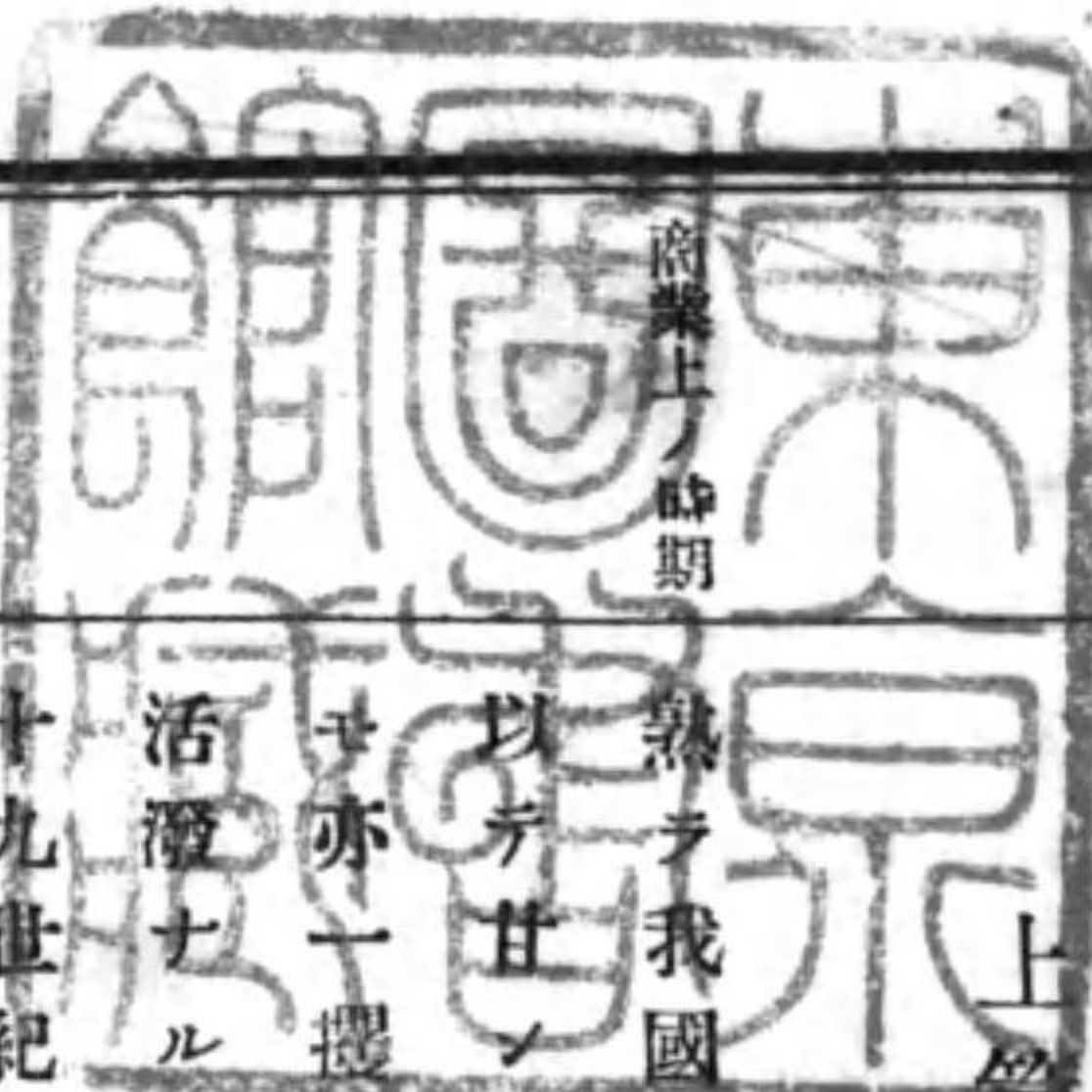
外國貿易論

文學士 添田壽一 著

上篇 本編

第一章 總論

商業上ノ時期  
 熟チ我國ノ現情ヲ察スルニ彼ノ狹小遲緩容易ナル内國商業ヲ以テ甘ニスルノ時期ハ既ニ過キ去レリ而シテ外國貿易ニ在テ亦一擲千金ノ投機時代ハ漸ヤク過ギ去リ專ラ着實確固永續活潑ナル組織ヲ以テ之ニ從事スルノ時期トハナレリ苟モ國チ十九世紀列國ノ間ニ建テ能ク其地位ヲ保タント欲セハ貿易ノ利ニ依ラサル可ラス然ルニ貿易ヲ利用シテ此ノ國ノ富強ヲ計ラス漫然經過シ其之クトコロニ放任セバ外國ノ産物ハ奢侈ノ



商業教育ノ特ニ我國ニ必要ナル所以

風ト共ニ流入シ國ヲ擧ケテ破産スルニ至ランモ未タ知ル可ラズ國家ノ破産ヲ忌ミ國家ノ隆盛ヲ欲セバ豈貿易ヲシテ有利ナラシメ智力アリ識見アル商人ヲ養成セサルヘケンヤ而シテ商業教育ノ必要ナルハ各國皆然ラサルモノナシト雖トモ殊ニ我國ニ於テ必要ヲ見ル其然ル所以ハ二十餘年前マテハ盛ニ鎖港ノ主義ヲ取リタルモノナレバ其商業ノ範圍狹ク發達モ充分ナラスシテ信用ノ如キ商業ノ一大利益モ大坂ノ如キ一部一地方ニ於テ多少ノ發達ヲ見タリシト雖トモ全体ヨリ論スルトキハ利用セラレスト云フモ不可ナキカ如シ而シテ其此ノ如クナル所以ハ商業者ノ罪ニアラズノ實ニ此ノ錯綜セル社會ノ組織ヨリ出タルモノナリ然ルニ今日ハ我が社會モ方向ヲ一變シ廣ク國ヲ開キ外國貿易ニ從事スルノ時トナリタレハ貿易ノ理ヲ講シ之ヲ發達セシメ信用ノ擴張ヲ計ルコト最モ急務タルニ至レ

從來我國商業機關ノ發達セザリシ所以

リ然ラズンハ歐米人ハ勿論支那人ニモ壓制セラレテ或ハ國家ノ衰弱ヲ招ク可シ嗚呼商業教育ノ必要モ亦大ナル哉若シ何故ニ商業機關ノ發達セザリシヤヲ討究スルニ我國ノ國風其重ナル原因ナルガ如シ昔時封建時代ノ風トシテ只武ノミヲ尙ヒ營利事業ノ如キハ其最モ卑ム所ノモノナリキ故ニ社會ニ擯斥セラレタルモノハ發達セザルノ原則ニ基キ商業ハ他ノ事業ニ比シテ殊ニ發達ヲ見サリシナリ而シテ之ガ爲ニ商人モ亦タ擯斥ヲ被リタレバ遂ニ卑屈賤劣以テ甘ソスルニ至レリ故ニ方今突然此ノ無氣力ナル商人ヲシテ此ノ激烈ナル外國貿易ノ衝ニ當テ活潑ナル競争場裡ニ立タシメンコトヲ求ムルモ得ベキコトニアラザルナリ然レドモ今日ハ得ベカラサルヲ以テ止ムヘキニアラズ充分獎勵シテ之レニ當ラシムルヲ要ス抑ソモ我國ガ鎖港主義ヨリ一變シテ通商互市ニ移リタル如キ



冒險投機ノ事  
業ハ秩序的社  
會ニ行ハレ難

摸倣ニ長スル  
日本人ノ氣風  
ハ外國貿易ノ  
一大妨害ナリ

社會上ノ激變ハ我國商業沿革上ニ奇相ヲ現ハシ而シテ凡テ變  
化ノ激烈ナルトキハ百般ノ事物秩序ヲ履マサルヲ常ナレバ此  
ノ間投機冒險ノ事盛ンニ行ハレ實着誠實ノ商業ハ成リ立たス  
シテ彼ノ生茶中ニ他物又ハ粗品ヲ混和シテ顧客ヲ欺キ不正ノ  
虛利ヲ射ソトスル如キ者續々輩出シ外國貿易トサヘ云ヘハ投  
機事業ノ如キ感ヲ抱カシムルニ至リタルハ怪ムニ足ラス然レ  
トモ最早コレ等山師的ノ商業ハ永續セス世人ノ信用ヲ失ヒ自  
今ハ信用アリ材幹アリ識見アル者ノ世ニ出ツル否ナ當ニ出テ  
サル可カラサル時機トナレリ  
然リ而シテ此ニ日本商人ノ智力ニ就キテ云フヘキコトアリ蓋  
シ我國人ノ天性カ又ハ人爲ノ制度ニヨリテ養成セラレタルニ  
ヤ國人ハ只管摸倣ニ巧ニシテ創造發明ノ器量ナク依頼心アリ  
テ協同合力ノ事ニ熟セス而シテ此ノ氣風ガ貿易ヲ妨クルコト

少カラス例ヘハ一商人ガ倫敦ニ絹手巾ノ販路ヲ開キタリト云  
ヘバ他商ハ之ニ倣ヒ我レモ我レモト輸出ヲ試ミ競争ノ極全体  
ノ價額ヲ落シ管ニ自ラ損失ヲ招クノミナラス創業者ヲモ其禍  
過ニ陷ラシムルノ傾キアリ故ニ外人モ日本商人ニ此ノ氣風ア  
ルヲ知リ日本ヨリ新見本ヲ送クルモ容易ニ買ヒ取ラス何ト  
ナレハ眞先キニ之ヲ買入レタル外商ハ之ニ續キテ無限ニ輸入  
サル、荷物ノ爲メニ賣崩サレテ其價非常ニ下落シ大ニ損失ヲ  
被ムルノ虞アレハナリ是レ我國人ノ摸擬心ヨリ來ルモノナリ  
又外商ガ不當ノ相場ヲ附クルガ如キ場合ニ一旦ハ申合規約ノ  
如キヲ設ケテモ裏切人ヲ生シ團結忽チ崩潰ス外商モ之ヲ知ル  
故一時ノ合同ヲ物トセス又政府ノ保護ナクテハ盛ナル事業モ  
出來ス皆ナ是レ我國人ニ同心協力獨歩ノ氣力ト識見ナキニ原  
因スルモノナレハコレ等ハ一日モ早ク之レヲ改メサルヘカラ

土地ノ廣表ニ  
限リアリテ人  
口ノ増加ニ限  
リナシ

國土人情異ル  
ニ隨テ其生産  
物ヲ異ニス

更ニ一步ヲ進メテ將來ノ日本ヲ案スルニ元來日本ノ地タル邦  
土狹少ニシテ人口益々増殖ノ傾向アリ内地ノ荒塲ヲ開拓シ北  
海道ノ平原ニ移住ヲ獎勵スルモ固ト限リアルノ地ハ限リナキ  
人口ヲ養フ可ラス殊ニコレ等ノ地ハ大概勞費ニ相當スル報酬  
ナキヲ以テ放棄セラレアル所モアレハ早晚我國ハ我土地ニ産  
スル物ノミニテハ人口ヲ支持スルニ窮スルノ時期ニ遭遇ス可  
シ故ニ以來ハ土地ノ産力ノミニ依頼セスシテ工業就中商業ヲ  
振興シ彼我ノ過不足ヲ補充スルコト肝要ナリ  
古代ノ如ク人類ノ所要若クハ慾望即チ(ウチント)ノ單純ナリシ  
時代ハイザ知ラズ已ニ今日人間ノ所要錯雜ナル時ニ於テハ決  
シテ内國ノ生産物ヲ以テ満足ス可ラズ必ス他國ト交易スルコ  
ト必要ニシテ且ツ大ニ利益アルモノナリ要スルニ各國特性ノ

異種ノ生産物  
ヲ交換セシム  
ルハ商業ノ本  
旨

産物アリ製品ニ巧拙アリ國土ニ適シ國民ノ能クスル産業ハ勞  
苦少クシテ收益多ク從テ其價モ亦低廉ナリ然リ而シテ彼ノ秀テ  
餘レルチ以テ我ノ拙ニ足ラサルチ相ヒ補フ者ハ商業ヲ措テ他  
ニ機關ナキヲ知ラハ外國貿易ノ必要ナルヲ論チ待タス又如何  
ニ農業工業ヲシテ熾ナラシムルモ賣買交易ノ機關ノ活動充分  
ナラズンバ遂ニ生産過多停滯ヲ以テ終ルベク之ガ爲ニ農工業  
ノ沈滯甚シク衰退スルハ必然ノ勢ヒナリ然リ而シテ斯ノ如ク迅  
速活潑ナル運動ヲ要スル機關ノ運轉ヲ掌ル將來ノ商人ハ即チ今  
日青年ノ子弟ヲ措テ他ニ求ム可ラズ然ラバ我國今日ノ青年子  
弟諸子ノ責任モ亦タ重且ツ大ナラヌヤ實ニ今日ハ徒ラニ老成  
ノ人々ノミニ託シテ省ミス唯空シク政論法律談ノミチ快トシ  
浮浪放遊以テ一物ヲ作ラス一事ヲ爲サス坐食高談是レ事トス  
ヘキノ時ニアラスシテ以上述ヘ來リタルガ如キ時機ナレハ我

國人タル者ハ須ラク何人ヲ論セス就中壯年有爲ノ人々ハ精シク商業ノ理ヲ講シ熱心以テ之ニ從事シ殊ニ外國貿易ノ難衝ニ當ルノ勇氣ヲ鍛練スヘキナリ

第二章 商業ノ種類并ニ外國貿易ノ起原

第一節 商業ノ類別

凡ソ商業ハ之ヲ大別シテ内國貿易及外國貿易ノ二トナスヘク其類別ハ左表ノ如シ



商業發達ノ順序

商業ノ最モ幼稚ナル時代ニ在ツテハ交易ハ家々間ニ行ハレ之ニ次クモノハ種屬間ノ交易ナリ例ヘバ河海ニ捕漁スル漁夫ガ野獸ヲ狩ル所ノ獲物ト其獲物ヲ交易スルガ如キ之レナリ次デ交易ハ進ンテ地方間トナリ當時吾人が目撃スルガ如キ北海道ノ鯡ノ粕ヲ以テ阿波ノ藍畑ノ肥料ニ供シ池田伊丹ノ銘酒ヲ以テ北海道人ヲ醉ハシムルガ如キ是ナリ然レドモ商業ハ永ク一國內ニノミ止マルモノニアラズ進ンテ外國ノ貿易トナリ本國及ヒ殖民地間ヨリ國際ノ貿易トナルモノトス而シテ此ニ述ヘタル商業進步ノ次第ハ假構ノ臆說ニアラス歴史ニ徴シテ証ユ可カラサルモノナリ今英國ノ略史ヲ案スルニ「サクソン」時代以前ニ在テハ商業專ラ家々間ニ行ハレ次デ種屬間トナリ其以後地方間トナリ其後進テ國際貿易トナリ次デ本國及殖民地間ノ貿易トナレリ尤モ殖民地間ノ貿易國際貿易トハ同時ニ生ス

内國貿易ト外  
國貿易トノ關  
係

ルノ觀アレハ其實際ハ時日ニ於テ多少ノ前後ナシトセズ他ノ  
國商業ノ進歩ノ如キモ其次第ハ以上英國ト相ヒ似タル者アリ  
斯ク商業貿易ノ歴史經歷ハ内國ヨリ漸ク外國ニ進ミタルモノ  
ナレハ外國貿易ト内國貿易トノ關係ハ一言之ヲ辨セサル可ラ  
ズ勿論本体ハ外國貿易ナレハ内國貿易ハ之レヲ附隨論トナス  
ベキモ内國貿易トテ決シテ緊要ナラサルニアラスアダムスミ  
ス氏ハ内國貿易ヲ以テ外國貿易ヨリ緊要ナリト論シタリ蓋シ  
舊來ノ經驗當時ノ世情ニ照セハ其論當ヲ得タリト謂フ可シ然  
ルニ其後自由貿易論者熾シニ輩出シテ内國貿易ニ重キヲ置カ  
ス一ニ意ヲ外國貿易ニ注キ一心ニ外國貿易ノミニツキ喋々セ  
シヨリ其弊ハ遂ニ一人モ内國貿易ノ必要ヲ論スルモノナキニ  
至リ經濟學者中ニモ議論總テ外國貿易ノ上ニ走セ少シモ内國  
貿易ニ及ハサルニ至レリ是レ彼ノ内國貿易ノミニ着眼シタル

内國貿易ト外  
國貿易トノ差違

時代ノ反動ト自由貿易極端論者輩出ノ然ラシムルトコロナル  
可シ然レトモ熟ラ現今世界進歩ノ程度ヲ察スルニ自由貿易論  
者ノ所謂國際ノ分業完全ニ行ハル、ノ時機モ未タ到ラス英國  
ハ單ニ鐵ト石炭トヲ產出シ日本ハ單ニ米生糸茶ヲ製産スルノ  
各國分業時代ニ達シタルニアラズ故ニ世界ノ各國ハ未ダ外國  
貿易ノミチ以テ其需要ヲ充タス能ハズ况ンヤ内國貿易ノ取引  
額遙カニ外國貿易ニ超過スルノ邦國少ナシト爲サ、ルニ於テ  
オヤ  
内國貿易ト外國貿易トノ差ハ大ナラスシテ唯第一分業區域ノ  
廣狹第二資本勢力移轉ノ難易アルノミ乃チ第一ニ外國貿易ハ  
國際分業ニ基ツキ内國貿易ハ地方間分業ニ基ツク而シテ効果  
ノ多少ハ分業ノ進退ニ由ルモノナレハ分業ノ範圍擴張スレハ  
其効果モ從テ大ニ貿易モ從テ擴ル可シ而シテ斯ノ如ク外國貿

易ノ區域ハ廣大ニシテ且ツ重要ナルト同時ニ一步ヲ誤レハ其禍害モ亦大ニシテ内國貿易ト同日ノ論ニアラズ第二ノ資本勞力移轉ノ難易トハミル氏ノ説ニヨレハ外國貿易ニ於テハ内國貿易ノ如ク資本勞力ノ移轉容易ナラス例ヘハ東京ノ片田舎ニ水車ノ利アリトセハ府内ノ紙漉場ハ其居テ之ニ移スヲ得ヘシト雖トモ國々ノ間ニ於テハ各國互ニ言語風俗慣習制度等ヲ異ニスルヲ以テ其資本勞力ハ内國ニ於ケルガ如ク自由ニ移轉スルコト能ハズ例之ハ日本ニ於テ條約ニ由リテ外人ニ土地ヲ買入レ又ハ商業ヲ營ムヲ許サレハ他國ニハ投スヘキ餘裕ノ資本アレテ之ヲ日本ニ投ズルヲ得ザルベキナリ斯ク内外貿易ノ差ハ顯著ナレテ亦退テ考フレハ其差ハ程度上ノ差ニシテ種類上ノ差ニアラズ今後各國間ノ交通開ケテ人情言語風俗慣習制度共ニ同一ニ赴ムカントスルノ傾向アレバ此ノ點ニ於ケル兩

者ノ差モ徐々減少スルナルベシ

第二節 外國貿易ノ起原

貿易ノ起原ハ  
利用ニアリ

凡ソ貿易ノ基ヅクトコロハ利用ナリ草莽時代ニ於テ既ニ甲ガ乙ノ有スル石斧ヲ借リテ薪材ノ伐採ニ供シ乙ガ甲ノ有スル石臼石杵ヲ借リテ米穀ノ磨舂ニ供シタルハ其有無ヲ交換シ互ニ其短所ヲ補充シタルモノニシテ畢竟其物品ニ利用アルニ由ルナリ然ルニ甲乙ガ石杵石臼ト石斧ヲ交換シテ使用センニハ之ガ爲メニ其運搬ノ勞少カラス元來人類ハ次第ニ勞力ヲ省略セシコトヲ務ムルモノナレハ此ノ運搬ノ不便ヲ避クルガ爲ニ其器具ノ貸借ヲ止メ其勞力ノ結果タル磨上ケタル穀類ト薪炭トヲ交換スルコト、ナリテ現品ノ交易生シタルナリ則ハ各人各家各國皆其長所ニ由リテ其業ニ從事シ其結果ノ交易ヲナスコト實ニ貿易ノ原因ナリ蓋シ各國互ニ其長所ニ就キテ働キ以

國際貿易ノ發  
生スル所以

人類ノ欲望ハ  
貿易ヲ發達セ  
シムルノ根柢  
ナリ

テ互其結果ヲ交換スルコト實ニ双方ノ利益ナリ之レ國際貿易  
ノ起ル所以ナリ  
斯ク論シ來タレハ或ハ貿易ノ最初ノ原因ハ利用及ヒ効果ニ過  
キサルカト速了スルモノモアラン然レトモ利用効果ハ空シク  
起ラス又空シク存スルモノニアラス人類ニ欲望ナクンハ物ニ  
利用ト効果トハ生スルモノニアラス故ニ尙ホ深ク貿易ノ淵源  
ヲ探究スレハ人類ノ欲望ハ其ノ最終ノ原因ナルヘシ然レドモ  
此ノ人類ノ欲望ハ當ニ心理學ノ範圍内ニ入ル可キモノニシテ  
經濟學上ノ問題ヲ外ツル、モノナレバ之ヲ措クベシ然レトモ  
欲望ノ發達ハ貿易ノ進歩擴張ニ伴フモノナレハ決シテ之ヲ度  
外視ス可ラス野蠻時代ニ在テハ人類欲望ノ疆域甚タ狹少ニシ  
テ只一地方ノ物品ヲ以テ満足シ又他ヲ希ハス然ルニ欲望ノ發  
達スルヤ亦一地方一國內ノ產物製品ヲ以テ満足セス異種異樣

外國貿易ノ基  
因ニ關スル謬  
論

ノ物品ヲ望ミ氣候風土ノ殊ナリタル地方ノ產物ヲ欲スルニ至  
ル可シ是レ貿易擴張ノ原因ナラスヤ實ニ內國貿易ノ進ンテ外  
國貿易トナリシハ人類欲望ノ擴張セルニ由ル苟クモ社會ノ退  
步セズシテ漸ヤク開明ニ進ム限リハ欲望益マス増進シ之ト共  
ニ貿易ノ範圍モ愈々擴張ス可キナリ  
世ニ或ハ外國貿易ノ原因ハ生産價格ノ差異ニアリトナシ則チ  
甲國ノ或ル物品ノ生産價額ハ乙國ニ於ケル同品ノ生産價額ニ  
比シテ低廉ナレハ其物熾カンニ甲國ヨリ乙國ニ輸入サル、可  
シト云フモノアレトモミル氏ノ卓見ハ能クコノ迷論ヲ打破シ  
タリ其說ニ曰ク

凡ソ一物ノ價ガ絶對的ニ高シトテ其物他國ヨリ輸入サル  
、モノニ非ラズ唯ダ其生産價格比較的ニ高低アルトキニ  
於テ始メテ外國貿易起ル

トコノ説ヲ唱へタルモノハ獨リミル氏ノミニアラズリカード氏及ヒ其同時代ノ經濟學者タルカーテル、トルレンス氏等モ之ヲ唱道シタリ然レトモ之ヲ詳論シタルモノハ實ニミル氏ナリトス今氏ノ設ケタル例ニ由リテ其原理ヲ説明セン

英吉利 波蘭

羅紗卷ヲ作ルニ 百五十日  
穀物百ヲ得ルニ 百五十日

コノ例ニ由レハ羅紗穀物共ニ波蘭ノ方ハ英吉利ヨリモ五十日ノ勞力ニ擔當スルダケ其價低廉ナリ若シ或人ノ説ニ從へハ波蘭英吉利間ニ於テ熾ンニ起ルヘキ筈ナレトモ實際然ラス是レ英國ヨリ羅紗ヲ波蘭ニ輸入シテ其穀物ト交易シ之ヲ本國ニ輸送スルトキハ百五十日ノ勞力ヲ以テ製シタル羅紗ヲ以テ同日數ヲ要スル穀類ヲ得ルモノナレハ管ニ往復ノ運賃保險料荷造

外國貿易ハ双方ニ利益アルヲ要ス

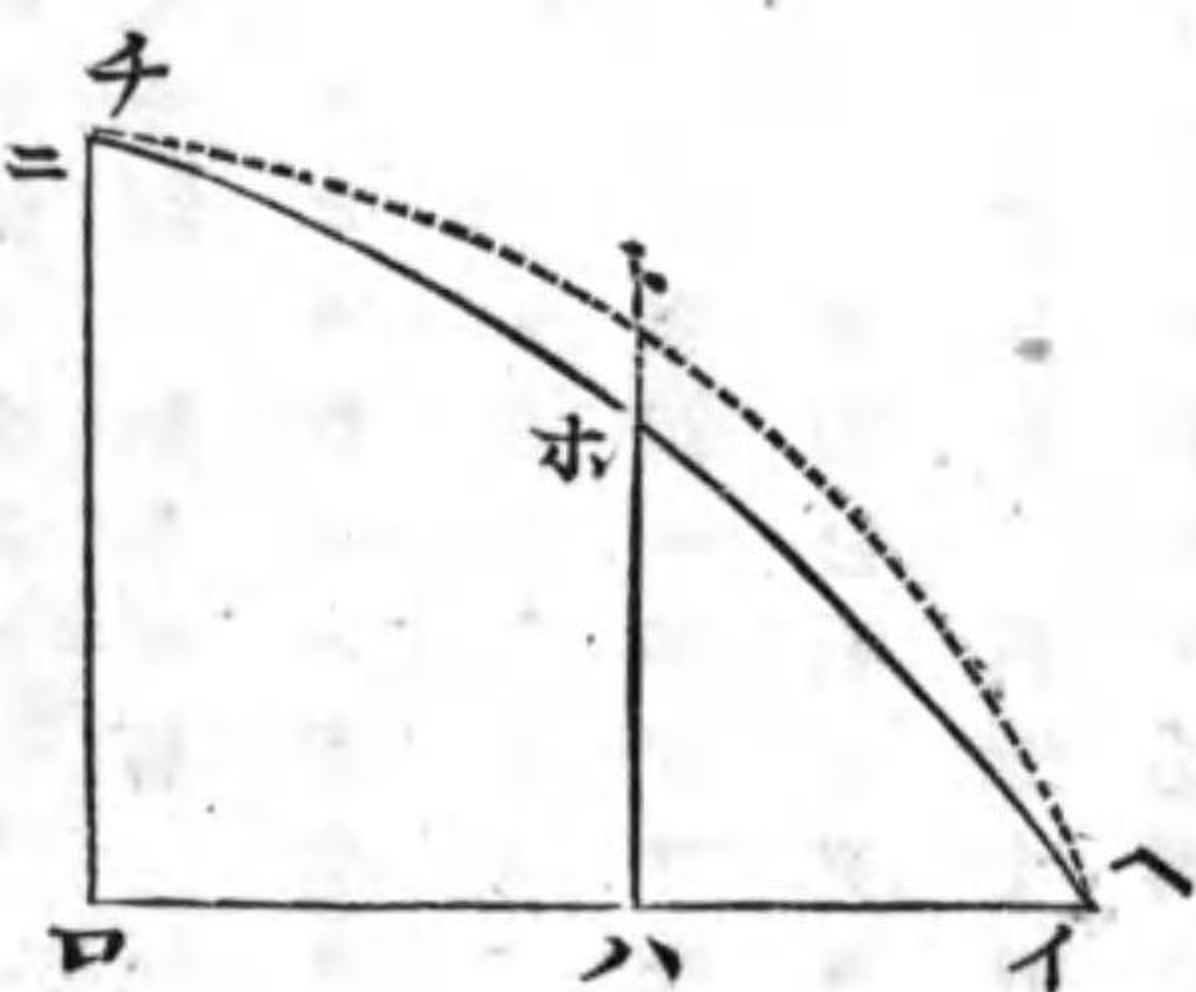
費其他ヲ損スルノミニシテ更ニ益スルトコロナケレハナリ何人モ斯ノ如キ貿易ニ從事セサル可シ然ルニ例ヲ變シテ左ノ如クナサハ貿易ハ忽焉トシテ起ル可シ

英國 波蘭

羅紗一卷ニツキ 百五十日  
穀物百石ニツキ 二百日

コノ例ニ於テ百五十日ヲ要スル羅紗ト百日ニテ出來ル穀物ト交易シテ穀物ヲ英國ニ輸入スルトキハ英商ハ百五十日ノ勞力ヲ要シタル羅紗ヲ以テ貳百日ヲ要スル穀類ヲ得ルナリ則チ英人ハ外國貿易ニ依リ五十日ヲ利スルナリ然レトモ元來貿易ハ双方ニ利ナラサレハ永續スヘキモノニアラサルカ故ニ英人ハ其利益ノ幾分ヲ波蘭人ニ讓ラサルヘカラズ即チ百五十日ヲ要スル羅紗ヲ輸入シテ波蘭ニ於テ百八十日ニ相當スル穀物ヲ得

レハ尙ホ英國ハ三十日ヲ利シ波蘭人ハ二十日ヲ利スル道理ナ  
 リ外國貿易ハ此ノ如ク双方ニ利益アリテ始メテ永續スベキナ  
 リ圖表方法ヲ以テ有名ナル經濟學大家セボンス氏ハ外國貿易  
 ノ原理ヲ説明スルニ高等數學上ノ圖ヲ用ヒタリ則チ左ニ掲ク  
 ルモノ是ナリ



但シハハイロノ中央ナリ

今右圖ニ於ケル①②線ヲ以テ我邦ニ於ケル生糸産出額トシ③  
 ④ヲ以テ我邦ニ於ケル生糸利用ノ度合ヲ示ス標準トス故ニ⑤  
 ⑥額ニ對スル利用ノ度ヲ示スモノハ⑦⑧ナリ産額多クハ多  
 キニ從テ利用ノ度合減退スルコトハ①②ノ方ニ進ムホド③④  
 ノ⑤⑥ニ近ツクニテ知ラル、ナリ然ルニ我國ニ於ケル鐵ノ利  
 用ハ生糸ニ比シテ多シトシテ⑦⑧⑨⑩ヲ以テ鐵利用ノ總  
 額ト假定セバ同量即チ①②ノ生糸ニ對シテ鐵ノ利用遙カニ超  
 過スルガ故ニ③④額ノ鐵ノ利用ノ度合ハ⑤⑥トニシテ⑦⑧ヨリ  
 モ高キコト⑨⑩ナリ英國ニ於テハコノ反對ニテ生糸ノ利用鐵  
 ヨリ多キコト同量ナリトセハ日本ヨリ生糸ヲ英國ニ輸入シテ  
 鐵ト交易セハ双方ノ利益少ナカラス又我國ニ於テ生糸ノ全産  
 額ノ半ヲ外國例ニハ英國ニ輸出スルト見做セハ先ツ輸出サル  
 、モノハ其利用少ナキ部分①②ナリ③④額ノ生糸ノ利用ハ⑤



①②ナルニ之ヲ同額ノ鐵ト交易セハ③④⑤トニノ利用ヲ得ルナ  
 リ然ラハ⑥⑦ノ鐵ト⑧⑨ノ生糸ト交易セハ其得ルトコロノ利  
 用與フルトコロノ利用ニ比シテ比較的ニ多カルヘシ是レ外國  
 貿易ノ因テ生スル所以ナリ英國ノ方ヨリ見ルモ其利益ハ同様  
 ナル可シ

第三章 各種ノ外國貿易利益厚薄ノ比較

第一節 結局均一ニ歸スルヘシ

外國貿易ハ其營業ノ方法ニ由リテ三種ニ類別ス

第一 直輸出入貿易

第二 間接貿易

第三 手數料貿易

營業方法ニヨ  
 ル外國貿易ノ  
 區別及其利益  
 ノ差

右ノ類別ハ實際的ノモノニシテ平生實際ニ則リテ經濟ヲ論ズ  
 ル大家アダムスミス氏モ亦タ外國貿易ヲ此ノ如ク類別セリ而  
 シテ氏ハ其各種ノ利害得失ニツキ論スルコト左ノ如シ曰ク  
 外國貿易中最モ利益アルモノハ直接輸出入貿易ニシテ之レ  
 ニ次クモノハ間接貿易ナリ而シテ其最少ノ利益アルモノヲ  
 手數料貿易トス第一種ニ於テハ資本ノ恢復速カニシテ第二  
 第三ハ資本ノ恢復第一ノ如ク速カナラス資本ノ恢復速カナ  
 レハ同一ノ資本ヲ幾回モ用ユルヲ得ベキガ故ニ其利スルト  
 コロモ亦少カラサルヘシ

然リト雖モアダムスミス氏ノ利害得失論ハ少シク其當ヲ失フ  
 モノニアラサルカ凡ソ競争自由ナル世ノ中殊ニ人爲ノ制限少  
 ナキ商業ニ於テハ架空ニ何種何類ノ商業最モ利益アリトハ云  
 フ可ラス若シ一ノ商業利益多クシテ他ノ商業利益少ナケレハ

他ノ商業ニ從事スルモノハ速カニ其業ヲ轉シテ利益アル業ニ就クナル可シ何チ苦ンテカ小利ニ甘センヤ然リ而シテ人ハ皆小利ヲ捨テ、多利ノ業ニ就ケハ需要供給ノ大則ニ由リテ其業モ亦利益従前ノ如クナラサルベシ蓋シ一時ハ甲ノ商業乙ノ商業ニ比シテ利益割合ニ多シト云フトモ永日月ノ間ニハ平準ニ復スルモノナレハ絶對的ニ第一種ハ第二種ヨリ第二種ハ第三種ヨリ利益アリト云フ可ラザルニ似タリ

買入		賣込		利益割合
直接	出日本百圓	米	百五十圓	五割
	入米國百圓	同	百五十圓	五割
間接	出地方百圓	橫濱	百二十圓	三割
	入橫濱百二十圓	地方	百五十圓	三割
手數料	出地方百圓	商館	百二十圓	二割

入米百圓

橫濱百二十圓

二割

右ニ掲クルガ如キ表ヲ以テ利益ノ多少ヲ計ラシカ實ニ該表ニヨレバ直接貿易ハ五割間接ハ三割手數料ハ二割ナレハ三種貿易ノ利害得失ハ一目瞭然ナルガ如シト雖此ノ五割三割ト云フモノハ純益ニアラスシテ總收入ナリ直接貿易ニ於テハ地方ニ於テ百圓ヲ以テ買入レ之ヲ米國ニ輸入シテ百五十圓ヲ得ルモ其五十圓ハ純益ニアラスシテコノ收入金中ニハ運賃荷造費保險料利子其他關稅郵便電信費及ヒ心勞ノ分子ヲ包含セリ間接ノ三割モ亦之ニ類ス然ルニ手數料貿易ハ資本ヲ要セズ假令ヒ之ヲ要スルモ多額ナルニ及ハス故ニ手數料貿易者ノ得ルトコロハ純粹ナル勞力ノ報酬ト云フベシ斯ノ如ク間接貿易ハ直接貿易ヨリモ又手數料貿易ハ間接貿易ヨリモ失費危儉モ少ナケレバ之ニ準シテ其收入ノ少額ナルハ勿論ナレトモ純益ニ到

テハ同シカルヘシ若シ然ラスシテ其失費危險勞力有形無形ヲ問ハス同一ナラサルニ其收入同シカラハ割合悪シキ貿易ニ從事スルモノハ割合宜シキ貿易ニ轉業スルニ至ルベキコト勿論ニシテ此ノ需要供給ノ大法ニ由テ各種ノ事業ノ利益歩合平準ニ赴クコト必然ナリ現ニ右ノ三種貿易互ニ存在セルハコレ純粹ナル利益歩合ノ平等ナルガ故ニアラスノ何ソヤ利益歩合均一ナルヘキコトハ重力ノ原則ニ由リ水ノ低キニ就クガ如ク數個ノ水瓶ニ盛リタル水ニ深淺ノ差アル管ヲ以テ相ヒ通セシムルトキハ各瓶ノ水一樣ノ水平面トナルカ如ク人爲ノ障害物ナクンバ利益歩合モ終ニハ平準ヲ占ムルナル可シ

第二節 均一ヲ妨クルモノ

然レトモ彼ノ法律又ハ規約ヲ以テ組合又ハ營業株ヲ設ケ其營業ノ人員ヲ限ル如キハコレ人爲ノ障害ニシテ一時其利純ノ歩

我國人ノ手ニ  
外國貿易ノ歸  
セサル所以

商人智識ニ乏  
シ

合チシテ不平均ナラシムルコトアルヘシ又法律規約ニ依リ人爲ノ獨占專有權ヲ蒙ルガ如キ制限ナキモ天然固有ノ長所ニ由リテ他ヨリ競争スルヲ得サル技術ノ如キハ普通以上ノ利益アルヘシ例ヘハ我國人ニ種々ノ事情ヨリシテ外國直輸出入貿易ヲ爲スモノ少ナケレハ競争者甚タ少ナキヨリ外國人ハ安堵シテ直接貿易ヲ營ミ獨リ專ラ其利益ヲ壟斷セリ抑々事ノ茲ニ至リシハ其故ナキニアラサルナリ今ヤ試ニ我國人ノ手ニ外國貿易ノ歸セサル所以ヲ考フルニ大畧左ノ如シ

第一 外國貿易ニ從事スル我國人貿易上ノ智識ニ乏シ  
外國貿易ニ從事スル日本商人ハ多ク外國ノ事情ニ不案内ニシテ如何ナル品物が如何ナル國ニ販路多キヤ如何ナル模様ガ何國人ノ嗜好ニ適スルヤ外人ハ何ノ爲メニ米ヲ買入ル、ヤ我國ハ何國ノ米ト競争セザルベカラサルヤ如何ナル航路ヲ經如何

ナル手順ヲ經テ外國ニ輸出スヘキヤチ審査セスシテ叨リニ外國市場ニ積出シ我先キニ賣込ミチ争ヒ其極遂ニ賣崩チナシ失敗踵チ接シテ起ルヲ以テ之ヲ傍觀スル者ハ之レニ懲リテ又直輸出ニ手出チ爲スモノナキニ至レリ今コノ弊ヲ除キ直接ノ貿易ニ從事スルモノヲ増シテ外人ノ掌中ニ歸シタル利益ヲ取戻シ以テコノ病根ヲ艾除スルノ目的ヲ達センニハ先ツ商業視察者ヲ外國ニ派遣シテ其事情ヲ通報セシムルニ如カス獨逸國カ近來商業上ノ勝利ヲ全世界商業場裡ニ得ルニ至リタルハ皆商業視察ノ如キ者ノ功ニ由レリ而シテ商業視察者ハ從來我國ニ行ハル、歐米視察者遊歷者ノ如キモノニ非スシテ能ク商業上ノ智識經驗ニ富ミ能ク外國語ヲ解シ外國市場ニ奔走シテ其情況ノ秘事ヲ探知シ速カニ本國ニ通知シテ本國商人ノ指針トナリ燈臺タルヘキ人物ナラサル可カラス日本ニ於テハ之ニ

適當ナル人物ナク假令ヒ之アルモ日本商人ハ小仕掛ノ商業ニ慣レ大仕掛ノ商業ニ慣レサルヲ以テ一人ニテハ勿論數人互ニ資力ヲ合セテ(内國商業ト異ナリテ外國貿易ニハ資力ヲ合同スル事大切ナリ)商業遊歷者ヲ派遣スル事タニ能ハス又封建時代座リ込ミ商業ノ餘習トシテ市場ノ情況ヲ探知スルニ汲々タラス又新聞等モ商業ニ熱心ナラサレハ新聞紙ニ由リテ其情況ヲ知ルコト能ハス又知ラントモセス新聞紙モ政事文學上ノ事ニハ熱心ナレドモ商業上ノ事ニハ至極冷淡ニシテ外國商業ノ實況ヲ詳載スルモノナキノ不可ナルハ勿論ナレドモ商人自身ノ注目ノ足ラサルハ痛嘆ニ堪ヘス

第二 我國商人間ニハ信用行レズ又信用ノ利用ニ拙ナシ日本ノ商業ハ未ダ封建ノ餘習ヲ脱セスノ取引間ニ信用行ハレズ詐僞詭譎ヲ以テ商業ノ秘訣トナス者少ナカラハ加之信用ヲ

商業間ノ信用  
薄シ

外國貿易ヲ危  
フムノ念アリ

利用スルノ道ニ精シカラス故ニ爲替ノ如キ信用ヲ利用シテ現金取引ニ代用スル業務ハ微々トシテ振ハス其手形ト稱シテ銀行ニ割引ヲ請フモノモ亦多クハ融通手形ニシテ只一時ノ金策ノ爲メ商人間ニ實際ノ取引ナクシテ製シタルモノニ外ナラス此ノ如クシテ豈能ク彼ノ資本ノ運轉遲ク資金ヲ要スル事大ナル外國貿易ニ從事スル事ヲ得ラルヘケンヤ

第三 外國貿易ヲ危ムノ念アリ

此ノ事ハ多ク第一ノ弊害ヨリ來ルモノニシテ外國ノ事情ニ暗キガ故ニ何トナク畏怖スル所アリ外國商業ハ危險多キガ故ニ能ク之ヲ冒シ其危險ニ打勝ツノ氣力充分ナラハ隨テ利益多シ然ルニ我國商人ハ兎角進取ノ氣力ニ乏シク且ツ小仕掛ナル内國商業ニ慣レタルヲ以テ常ニ姑息ノ策ヲ爲ス者多シ夫レ外國商業ニ於テハ叨リニ退守ノ主義ヲ取ル可カラズ能ク熟慮ノ計算

ヲ過タス決心シタル以上ハ必ス絶對的ニ退守ス可カラズ蓋シ總テ政府ノ保護ノ行過キ一部ニ私チナシ失費多キ分ハ甚タ不可ナレトモ外國市場ノ景況ヲ迅速確實ニ商人ニ博ク公平ニ知ラシムルハ善キ事ナリ是レ實ニ領事館ナトノ設ケアル所以ナリ況ヤ我商人未タ盛ニ自ラ進テ探知之ニ越シタル事ナケレトモスル事ヲ爲ササルノ今日ニ於テチヤ

右ニ述ヘタル三種ノ病根チ艾除シ我國人が競争シテ商利ヲ直輸貿易上ニ占ムルヲ得ハ今日ノ如ク居留外商ニ不當ノ利益ヲ占メラル、如キ事ナク外商ノ得ル利益他ト均一ニナルヘキノミカ若シ此ノ如クナラハ我國ノ富強ハ期シテ待ツ可キナリ

第四章 外國貿易ノ利害得失

今ヤ外國貿易ノ利害得失ヲ比較スルニ當リ之ヲ經濟以下左ノ表ニ示ス所ノ五點ヨリ觀察スヘシ

一、經濟上

直接

- イ、慾望ヲ満足セシム
- ロ、餘剩不用品ヲ有用品トナス
- ハ、物價ヲ均一ニシ激變ナカラシム
- ニ、賃銀製造費ヲ減シ全体ヲ利ス
- ホ、夥多ナル人口ヲ支フ
- ヘ、獨占專有ヲシテ行ハレ難カラシム

利益

- 二、政治上—各國ノ交際ヲ和ラケ平和ヲ維持セシム
- 三、智力上—學理ノ應用ヲ盛ニシ人智ノ發達ヲ促ス
- 四、道德上—信用ヲ全セシメ德義ヲ高クス
- 五、社會上—人生ノ幸福ヲ増進ス

外國貿易

- 一、經濟上—商業上ノ變動ノ波及スル所廣且ツ大ナリ
- 二、政治上—無產浮浪ノ民ヲ生スル事アリ

弊害

- 三、智力上—職工ヲ器械動物トシ使用セシム
- 四、道德上—動々モスレハ不正ノ輩ニ虛利ヲ得セシム
- 五、社會上—社會ノ基礎ヲ危クスルノ傾アリ

第一節 外國貿易ノ利器

經濟上ノ利益

先ツ右ノ表ノ順序ニ據テ利益ヨリ始ムヘク就中直接ノ分ヨリ着手スヘシ

慾望増進

一、經濟上ノ利益

イ 外國貿易ハ甲國ニ生セサル物産ヲ乙國ヨリ輸入シテ甲國ノ消費者ニ與ヘ又貿易開始前ニ非常ニ高價ナリシモノモ外國ヨリ輸入シテ其價格ヲ低減セシム則チ從來アヲサリシモノヲ輸入スルカ又從來高價ナリシモノヲ廉價ニ得セシム要スルニ各國人ノ慾望ヲ満足セシメ之ヲ低廉擴張スルノ利アリ

剩餘品ノ利用

ロ 外國貿易行ハルレハ我ガ剩剩ヲ輸出スルコトヲ得ベケレ  
 バ假令ヒ日本ニ於テ豐作ニ由テ米ノ收穫意外ニ多キトキ  
 モ米價非常ニ下落スルノ前之レヲ海外ニ積出シ空シク貯  
 蓄シテ腐敗ヲ招クノ拙策ヲ取ラズ之ヲ外國ニ出シテ余剩  
 ナ有用ニ使用スルヲ得ベシコノ利益ハアダムスミス氏ノ  
 唱道シタル所ナリ然ルニミル氏之ヲ駁シテ曰ク是レ外國  
 貿易ノ利ニアラスト凡ソ物ヲ生産スル上ニ於テ剩剩ヲ生  
 スルト云フコトナシ何トナレハ剩剩ヲ生スルトハ即チ報  
 酬ナキコトニ資本ヲ用非ルコトヲ意味スルモノニシテ是  
 レ實際アルベカラサルコトニ屬ス而シテ己ニ國ニ剩剩ナシ  
 トセバ之ヲ外國ニ出スモノナカルヘキ筈ナレハナリト然  
 レトモ是レミル氏ガアダムスミス氏ノ説ヲ誤解シタル所  
 謂言葉爭ヒニハアヲサルカ

物價ノ均一

ハ 要スルニアダムスミス氏ノ意ハ外國貿易ハ我ニ要スルヨ  
 リ以上ノモノヲ外國ニ出タスノ途アルヲ云ヒタルナラン  
ミル氏トテモ國際分業行ハレテ効果ノ増ス以上ハ各國互  
 ニ彼我各人ノ慾望ヲ満足センガ爲メ内國ニ要スルヨリモ  
 多額ヲ生産スベシ故ニ外國貿易ハ各國ヲシテ其地ニ適當  
 ナル物品ヲ餘分ニ製造シテ彼我交易シ國際分業ヲナスノ  
 利アルコトヲ認ムルナル可シ  
 夫レ外國貿易ナクンハ例ハ某國ニ於テ連年凶作引續キ  
 タランニハ穀類ノ價格非常ニ騰貴シテ底止スル所ヲ知ラ  
 サルニ至ラン然ルニ外國貿易行ハル、時ハ其國ニ於テ米  
 麥ノ價大ニ上昇セハ他國ヨリ輸入セラレテ其不足ヲ補ヒ  
 又餘リテ價下レハ他ニ出テ行キ價格激變ヲ脱シテ徐ロニ  
 均一ニ赴ク可シ

賃銀底減

今ヨリ間接ノ分ヲ考フルニ左ノ如クナリ  
 ニ 外國貿易ノ影響ニ由リテ賃銀ノ下落ヲ來スハ重モニ食品ノ價格下落スルニ基ツケリ米國ト歐州ノ間ニ通商ノ途開ケテ米國ノ小麥熾ニ歐州ニ輸入サル、事トナラハ歐州市場ニ於ケル小麥ノ價格ハ大ニ下落スベシ食品ノ下落ハ之ヲ食スル職工ノ賃銀ニ影響シテ其下落ニ伴フコト自然ノ勢ナリ例之ハ一日貳拾五錢ノ賃銀ヲ受クル職工其中賃銀拾五錢ヲ以テ一家ノ食料ニ充テシニ食品ノ價下落シテ一日拾錢ヲ以テ日用食品ヲ得ラル、コト、ナレハ現ニ五錢ノ餘裕ヲ生ス可シ然ルトキハ傭主ハ諸色ノ下落ヲ口實トシテ賃銀ノ引下ケヲ云ヒ出スヘシ而シテ職工等ハ一時コノ云ヒ出シニ抗スルモ競争ニ由リテ到底幾分ノ下落ヲ脱レサルヘク且ツコノ賃銀底減ハ職工ノ福利ヲ減ズルコ

人口増殖ノ支

トナカルベシ何トナレハ金錢上外見ノ賃銀額ハ減少スレトモ其實價内實ノ賃銀ハ少シモ減セズ故ニコノ賃銀ノ下落ハ職工ニ損失ヲ與ヘサルノミナラス却テ幾分ノ餘裕ヲ與テ粗生品ノ製造費ヲ減セシメ其製品ノ價格減シテ消費ヲ増シ從テ多クノ職工ヲ要スルコト、ナルベク幾分カ賃銀ヲ上クルノ傾ヲ生スベシ而シテ此ノ如クシテ賃銀少々上向ヲ生スルニ甚シキニハ至ラスノ彼ノ之ヲ下クル力ノ如ク大ナル上リハナカルヘシ且ツ外國ニ輸出サル、以上ハ世界市場ヲ相手トスル事トナル故ニ多人數ノ職工ヲ要シ無數ノ小民ヲシテ糊口ニ窮スルノ餘危險ナル遊民タラシメサルノ効能少カラス

ホ 外國貿易ノ手段ニ由ラサレハ人口ノ増殖ヲ支フ可ラス英國ニシテ外國貿易ナクンハ如何ニ土地ノ生産力ヲ増スモ



現今居住スル人間ヲ支持スル能ハサルベシ我國ノ如キモ東海ノ一小嶼其情況大ニ英國ニ似タルモノアリ若シ外國貿易ヲ熾ンニシテ彼我物品ノ交易ヲ爲シ土地以外ニ財源ヲ求メサレハ毎年非常ノ數ヲ以テ増加スル我ガ人口ヲ支持スルヲ得ンヤ

獨占權ヲ制止ス

外國貿易行ハレテ自由競争盛ンナレハ百種獨占專有其跡ヲ絶チ從テ之ニ依頼スル者モ減少シ其弊害漸ク減少ス可シ何トナレハ外國貿易ニ刺激セラレテ競争繁劇トナルトキハ舊來商業内國ニ限キラレ從テ競争モ微弱タリシ時ノ如ク法律命令ヲ以テ制限ヲ設ケ獨占專有ヲ維持スルコト甚タ困難トナルノミナラス甚シキハ彼ノ保護政策ノ如キモ行ハレ難クナルヘシ是レ自國ノ産業ヲ保護シ自國ノ福利ヲ計ランカ爲メ考ヘ違ヒヨリシテ人爲ノ制限ヲ設ク

レハ他國モ亦之ニ對シテ同様ナル制限ヲ設クルコト、ナレハ隱遯孤立ヲ以テ甘ンスルニアラサルヨリハ到底故造ノ制限ヲ撤去セサルヲ得ス

尙ホ外國貿易ノ經濟上ノ利益ハ少ナカラスト雖トモ今ヤ右ニ其主要ナルモノヲ列舉シ其他ノ利益ハ略シテ人類有形上ノ福利ハ増進スルト云フ簡單ナル語中ニ包括セシメテ可ナリ

政治上ノ利益

二 政治上ノ利益

戰爭ヲ減ズ

外國貿易ハ大ニ各國交際上ニ利益ヲ與フルモノナリ外國貿易行ハルレハ人々戰爭ニ由テ商業ノ澁滯ヲ來タサン事ヲ恐レ務メテ之レヲ避ケントスルガ故ニ到底戰爭ノ數益々減少スルコトナラン佛獨兩國ガ今ニモ雌雄ヲ銃砲ノ間ニ決シ妖雲ヲ以テ歐洲大陸ヲ蔽ハントスルノ勢アレハ容易ニ干戈ヲ動サ、ルハ他ナシ戰爭カ大ニ兩國商工業ニ關係ヲ有スレハナリ昔時ノ如

ク君主カ宣戰媾和ノ大權ヲ掌握シ我意ニ任セテ他國ト戰端ヲ開キタル時代ハイサ知ラス今日ノ如ク立憲ノ制度行ハレテ主權者モ亦實際ノ所人民總代ノ協贊ニ據テ宣戰媾和ヲ決スル時代ニ在リテハ擅ニ我意ニ任セテ干戈ヲ動カス能ハズ人民總代中ニハ戰爭ニ由テ人民ノ不幸ヲ蒙ムルコトヲ知ル者少ナカラサレハ容易ニ開戰ニ同意セス從テ軍費ノ支出ヲ肯シセスンバ主權者ト雖トモ于戈ヲ弄スルヲ得スシテ國際ノ平和爲メニ維持スルヲ得

又舊時ニ在テハ土地ヲ以テ百福ノ淵源威力ノ根基トナシタルヲ以テ明リニ土地ヲ掠奪シタリト雖トモ現時ニ在テハ廣漠ナル土地ヲ有セサルモ商業ニ由リテ福利ヲ得ラル、ヨリシテ濫ニ干戈ヲ弄シテ土地ヲ掠奪スルモノナク寧ロ平和手段即チ商業上ノ競爭ニ依リテ利益ヲ得ントセリ戰爭ハ平和ノ競爭ヲ防

智力上ノ利益

競爭ノ爲ニ進歩改良ヲ促ガス

害スルモノナレバ從テ戰爭ノ減シタルハ自然ノ勢ナリ然ルニ何故ニ目下各國カ海陸軍ヲ増シ兵備ニ嚴ニスルヤト云フニ是レ戰爭ヲ爲サンガ爲メニアラスシテ平和ヲ維持センカ爲メナリ戰爭ヲ預防センガ爲メニシテ戰爭ヲ起サンガ爲メニ非ラズ

三 智力上ノ利益

外國貿易盛大トナリシ以來各國際間ニ智力上ノ競爭繁劇ヲ加ヘ從テ改良進歩ノ精神勃々トシテ起リ例ヘハ甲國ニ於テ非常ニ精巧ナル器械ヲ發明シテ紡績業ヲ改良シタリト云ヘバ乙國ニ於テハ之ニ劣ラサル器械ヲ發明シテ尙ホ一層製造費ヲ省減セントシ競爭益熾ンナレバ改良進歩ノ勢モ亦盛ニシテ學術ヲ考究シ之ヲ應用シテ諸般ノ實業ニ用キ種々ノ發見陸續輩出シ殆ド其底止スルトコロヲ知ラサルナリ

又甲國ニ於テ一機械ノ發明アレバ他國ニ於テモ同様ナル發明

チナサントシ能ハサレバ之ニ模擬シ又ハ改良チ加ヘテ之ト競争ヲ計ルチ以テ叨リニ專賣權ヲ保持セント欲スルモ能ハズ故ニ近來ノ發明者ハ之ヲ秘シテ其專賣ノ利益ヲ收メヨリ寧ロ其專賣權ヲ各國ニ讓渡サントス斯ク一發明アル毎ニ其發明ハ直チニ全世界ニ傳播サル、チ以テ一ノ發明ハ他ノ發明ヲ伴ヒ一ノ改良ハ他ノ改良ヲ誘發シテ駁々トシテ進歩シ殆ト寧日ナキガ如シ又智力モ之ヲ煉磨セサレバ迂鈍ヲ脱レズト雖ドモ外國貿易ニ依テ競争場裡ノ煉磨ヲ蒙ムルガ故ニ人智ハ腐敗迂鈍トナラザルコト尙混々トシテ晝夜ヲ絶タサル流水ノ如シ智力ニ富マサレバ失敗ヲ取ルノ恐レアレバ之ニ從事スル者ハ皆智力ヲ煉磨テ其競争ニ當ラントスルチ以テ爲メニ人智ノ進歩スルコト少々ナラザルベシ

道德上ノ利益

四 道德上ノ利益

信用ノ擴張

外國貿易ガ道德ニ益アリト云フハ少シク奇言ニ似タリト云ヘトモ然ラズ内國商業ニ於テハ信用ノ効用左程ニアラズ商人モ信用ノ利用ヲ知ラサレバ商人ノ道德低度ニ在リト雖トモ外國貿易ニ於テハ信用ノ用最モ多ク其利益モ甚ダ大ナレハ外國貿易ニ從事スルモノハ一時外國貿易ノ爲メニ投機心ヲ誘發セラハサルヲ悟リ自カラ信用ヲ重シク信用ヲ増スコトニ盡力スルニ至リ商業上ノ德義涵養セラレテ一般ノ道德ヲ進ムルニ至ルベシ外國貿易ニ於テハ一回ノ不信用ハ未來ノ營業ニ影響スルコトナレハ皆其未來ヲ慮リテ不德義ノ所爲ヲ慎ムニ至ラン實ニ外國貿易ニ於テ邦人信用ヲ失ヘハ貿易衰頽シテ其商權ハ他國人ノ手ニ移ランコト明ナリ又内國商業ハ鉅多ノ資本ヲ要セサレバ資本少ナク信用ヲ意ニ介セズ目前ノ小利ニ走リテ不正

ノ手段ヲ用ユル小商人モ之レヲ爲シ得ルヲ以テ爲メニ商業上ノ徳義ヲ亂スコト少ナカラズ然ルニ外國貿易ハ大仕掛ニシテ鉅多ノ資本ヲ要シ不徳ナル小商人ノ及フトコロニアラサレバ之ニ從事スル商人ハ皆鉅額ノ資本ヲ有シ已レノ名譽ヲ重ンジ信用ヲ輕ンセサル紳商ノミナレバ其美風ハ一般ニ普及シテ社會ノ風儀ヲ政良進歩セシムルノ效驗アル可シ否アル様ニナラサルヘカラス

五 社會上ノ利益

社會上ノ利益ハ前ニ述ベタル經濟以下ノ諸利益ハ勿論總テ金ヲ益スルモノ、總稱ニシテ各國各人ノ有形的幸福ヲ増進セシムルト云フ利益此レナリ蓋シ一々細別シテ列舉スルノ煩ヲ省キ以テ總括シテ省略ス

第二節 各國貿易ノ弊害

社會上ノ利益  
各人ノ有形幸  
福増進

外國貿易ノ弊  
害

凡ソ天下ノ事物一利アルモノハ一害アリテ利害ハ常ニ相ヒ伴フモノナレハ其利害ヲ對比シ利害ノ其多少ニ付キテ判斷ヲ下ササルベカラズ果シテ利益多ケレハ是レ善ナリ美譽ナリ弊害多ケレハ是レ惡ナリ不可ナリ之ヲ除クノ方法ヲ研究セサルベカラズ又一物ニ就キ單ニ其利ヲ唱フルモ其物ヲ明示スル能ハスンハ其利ノアル所ヲ進ムル能ハズ凡ソ利益アルモノハ其利益ト共ニ之ニ伴フ弊害ヲ探究シ之ヲ明示シ其利ハ進メ其害ハ之ヲ除カサルヘカラズ然ラスシテ其利ヲ究メズ弊害ヲ放置スルトキハ終ニ進歩改良行ハレス若クハ害ノ爲メニ倒ル、ニ至ラン但シ其物ノ利害ヲ對比スルニ當テハ務メテ公平無私ナラサルベカラズ

經濟上ノ弊害

一 經濟上ノ弊害

世間ニ外國貿易ハ投機心ヲ熾ンナラシメ人ヲシテ正業ヲ離レ

商業上ノ波瀾  
ヲ大ニス

テ投機ノ業ニ走ラシムト云フモノアレドモ是レ再三既ニ述ヘタル如ク少シク其當ヲ得サルモノナリ始メテ外國貿易ヲ開キタル時ハ一時投機心ヲ誘發スルノ嫌アレトモ到底外國貿易ハ物價ノ激變ヲ防キ交通ノ便利ハ交通ノ不便ニ因リテ生シタル困難ヲ除クヲ以テ投機ヲ制止スル傾向アルトモ之ヲ誘導スルコトナシ故ニ之ヲ以テ經濟上道德上ノ弊害ト云フベカラズ之ニ反シテ真正ノ弊害ノ最大ナルモノハ外國貿易ト共ニ市場擴張シ爲メニ一度ビ物價ニ變動ヲ生スルカ又ハ市場ニ故障生スルトキハ其波及スル所ノ廣ク且ツ大ナルコト是レナリ内國商業ニ在テハ範圍狭キ市場ニ向ツテ取引製造ヲ爲スモノナレバ之ヨリ生スル影響モ從テ狭小ナリト雖モ商業一タビ全世界ノ商業トナリ全社界ノ市場ヲ相手トシテ製造取引スル以上ハ一ノ失策モ大變動ヲ醸シ獨リ之ニ從事スル商業者ノ損失ノミナ

政治上ノ弊害

遊手不逞ノ徒  
ヲ生ズ

ラズ其害毒ハ延ヒテ其商品ノ製造ニ從事スル職工及ビ製造家ニ及ビ其困難一方ナラサル可シ爲メニ糊口ニ究シ危險ナル社會黨共產黨ノ分子ヲ形クル遊民浪手ヲ生ス可シ又外國貿易ニ由テ分業ヲ盛ンニ行ハル、トキハ一業ヨリ他業ニ轉スルコト甚ダ容易ナラズ假令一業ヨリ他業ニ移ルモ無數ノ職工一時ニ其ノ本業ニ放レテ他ニ轉スルコトナレバ他ノ職工ノ賃銀ノ低減シテ社會ニ非常ノ害毒ヲ流スニ至ルハ外國貿易ノ發達セシヨリ以來脱ルベカラザル弊害ナリ

二 政治上ノ弊害

前段ニ於テ述べタル如ク外國貿易ノ變動ニ由リテ無數ノ職工ガ無職無産ノ徒トナルコトハ政治上甚ダ好シカラサルコトナリ何トナレバ彼等ハ騷擾ノ原素ヲ形クルモノニシテ財產平均黨又ハ社會黨ノ如キ無謀者ノ現出スルハ幾分力之カ爲メナレ

ハナリ又外國貿易ハ國際上ノ平和ヲ維持スルノ利アレトモ各國カ軍艦ヲ派遣シテ通商國ノ港灣ニ碇泊セシメ又近海ヲ巡邏セシメ國威ヲ誇揚シテ暗ニ自國ノ商業ヲ輔ケントスルヨリ弱國ハ強國ノ爲メニ壓セラレ其他諸港ニ於テ水夫人民間ニ葛藤ヲ生シテ國際上ノ困難ヲ誘發スルノ類少ナカラズ是レ最モ間接ナレトモ實ハ害タリ

智力上ノ弊害

三 智力上ノ弊害

已ニ述ヘタルガ如ク外國貿易ガ智力發達上ニ及ホス利益至大ナリト雖トモ必スシモ弊害ナシトハ云フベカラズ外國貿易ガ勞働社會ニ及ホス間接ノ結果ヲ考フルトキハ外國貿易ガ大任掛ケノ工業商業ヲ獎勵シ遂ニ人類ヲ智力的靈物トシテ使用セシヨリ寧ロ機械的ノ動物トシテ使役スルニ至ルベシ此ノ弊害ハ間接中ノ間接ナリト云ヘトモ其結果ハ智力上ノミカ生産上

人間ノ能力ヲ偏欲ナラシム

道德上ノ弊害

ニモ容易ナラサル損害ヲ與フルヲ以テ商業盛大隨テ大工業熾ンニ行ハル、各國ニ於テハ工場條例又ハ特別監督法ヲ設ケテ學齡兒童ハ工場ニ使傭スルヲ許ササル者アリ或ハ何歳ヨリ何歳ニ至ルノ雇人ハ一日何時間工場中ニ就テ就學スルヲ得ルノ方法ヲ設ケシムルモノアリ斯クノ如クシテ職工ニ普通教育ヲ授ケ其弊害ヲ救正セシムル事ニ孜々セリ

四 道德上ノ弊害

外國貿易ガ道德上弊害多シトノ說ヲ唱フル人々ハ曰ク外國貿易カ一般社會ニ信用ノ敬重スベキヲ悟ラシメ引テ一般ノ徳風ヲ涵養スルノ利ハ外國貿易ガ道德ヲ腐敗壞亂セシムルニ比スレバ其及ハサルコト遠シト就中經濟學者中詩人派トモ稱スヘキ人々ハ商業ヲ以テ不徳不正ノ業務トナシ殊ニ外國貿易ヲ攻撃セリ此ノ派ニ錚々タルラスキン氏ノ唱道スルトコロヲ略

商業ト正實トハ相伴ハズトスル説

述センニ氏ノ曰ク凡テ商業ハ殘忍酷薄ナルモノナリ他人ノ必要ヲ覘ヒテ其ノ機ニ乗シ他人ノ不知ヲ利シ射利ヲ爲スモノナリ是レ決シテ聖人君子ノ爲スベキ業ニアラズ故ニ余ヲ以テ見レバ商人(原說ツレーダー)ナル語ガ傳説ニ泥ム者(ツラヤトア)ヨリ終ニ反賊(ツレイター)ト變スルガ如ク商人ハ結極詐僞瞞着ヲ主トスル民俗トナラン誠實ハ最上ノ方策(チチテト、イス、セ、ベスト、ポリシー)ナル金言ハ商人決シテ之ヲ守ラズ何トナレバ之ヲ遵奉スレバ商業ヲ以テ利ヲ見ルコト能ハサレバナリ百圓ニテ買入レタル品物ヲ買手ニ向テ正直ニ百圓ニテ買入レタリト云ハバ利益ナカルベシ商人ハ百圓ニテ買入レタルモ百十圓ニテ買入レタリト僞リテ其利益ヲ占ムルナリ商業ノ本質ハ誠實ト相ヒ適合セサルモノナレバ商人ハ誠實ハ最良ノ方策ナリトノ諺ヲ守ル能ハス誠實ト商業トハ兩立セズ慈悲慈善ハ商人ノ心

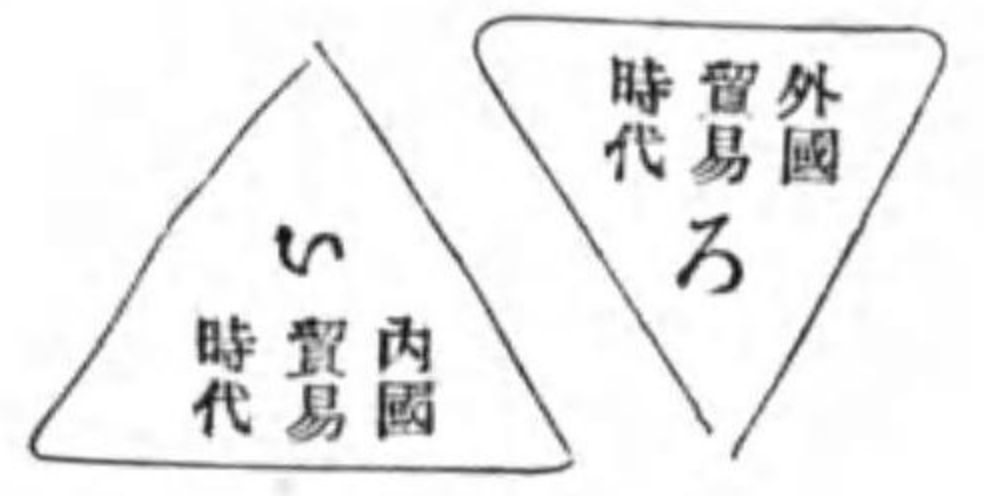
裡ヨリ地ヲ拂テ去レリシエクスピア氏ノヴエニス商人トシタル筋書中ニ現ハレタル高利貸猶太人シヤイロツクハ能ク商人ノ本質ヲ穿チタルモノナリ云々ト此レ等ノ言ハ詩人派ガ商賣ノ區域擴張スルト共ニ世界ノ大勢一變スルヲ見テ轉々慨歎ニ堪ヘズシテ發シタル過激ノ語ニシテ世人ノ感情ニ訴ヘン爲メ擴張セルモノナレハ學理上ノ價值アルモノニアラズ只時弊ヲ指摘諷刺スルニ與ツテ力アリト云フベシ實ニ商業未ダ十分ニ發達ヲ爲サズ内國商業ノミ存スル時代又商業社會ノ一部ニ於テ道德腐敗シタルトキハ例外トシテ此レヲノ弊害生スト云ヘドモ之レヲ以テ商業ノ本質ニ欠點アリト云フベカラズ但シ深ク誠メサレハ動々モスレハ此ノ如キ弊ヲ生セストモ斷言シ難シ

社會上ノ弊害

## 五 社會上ノ弊害

財産ノ不平均

コノ弊害ハ經濟上ヨリ來ル間接ノ弊害ニシテ要スルニ外國貿易盛ンナレハ全時ニ大資本ヲ要スル大工業熾ンニ興ルベシ大工業熾ンニ興レバ勢ヒ大資本家ハ小資本家ヲ併吞スベシ小資本家大資本家ト併立比肩スル能ハズ其後ニ從ヒテ遺利ヲ拾フノ慘狀ニ陷ルトキハ社會上最モ恐ルベキ所ノ財産不平均ヲ生スベシ



今小資本小工業ノ能ク存立シタル内國商業時代ト大資本大工業家ノ小資本小工業家ヲ併吞セル時代ノ社界ノ情態ヲ圖テ以テ比較セバ前者ハい三角形ノ如ク基底ヲ下ニシテ確立セル者ニノ後者ハ之ヲ倒置シタルる三角形ノ如クナルベシ小資本家多數ナルルハ其外觀即チ

無形ノ快樂ハ少數人ノ有ニ歸ス

上ヨリ見テ壯麗ナラザルモ其基底鞏固ニシテ社會安穩ナリト雖ヘトモ小資本家ノ多數少數大資本家ニ併吞セザレタルトキハ上ヨリ見タル其外相ハ立派ナルモ頭大振ハスシテ社會ノ基礎危カルベシ今日英國ニ於テ商業派經濟學者ニ對シテ反對ヲ試ミル者アルハ抑々故ナキニアラズシテ實際社會ノ狀態ニ徴シテ論ヲ立テ、今日歐米各國中之ヲ信スル者アルニ至レルモ亦其弊害眼前ニ横ハリ種々ノ形ヲ以テ出現スレハナリ又外國貿易ガ有形的快樂ヲ増進スルコトハ争フベカラサル事實ナリト雖トモ之ト共ニ無形ノ快樂モ亦増進ストハ斷言スベカラズ財産ガ多數人ノ手ヨリ小數人ノ手ニ集ルガ如ク幸福モ亦多數人ヨリ少數人ニ移リ多數人ハ無形ノ快樂場裡ヨリ放逐セラル、ノ觀ナキカ世ノ進歩貿易ノ擴張ト共ニ人類ノ心神ハ休ムト云フ事ナク安シテ今日ヲ送ルコト少ナク常ニ齟齬トシ

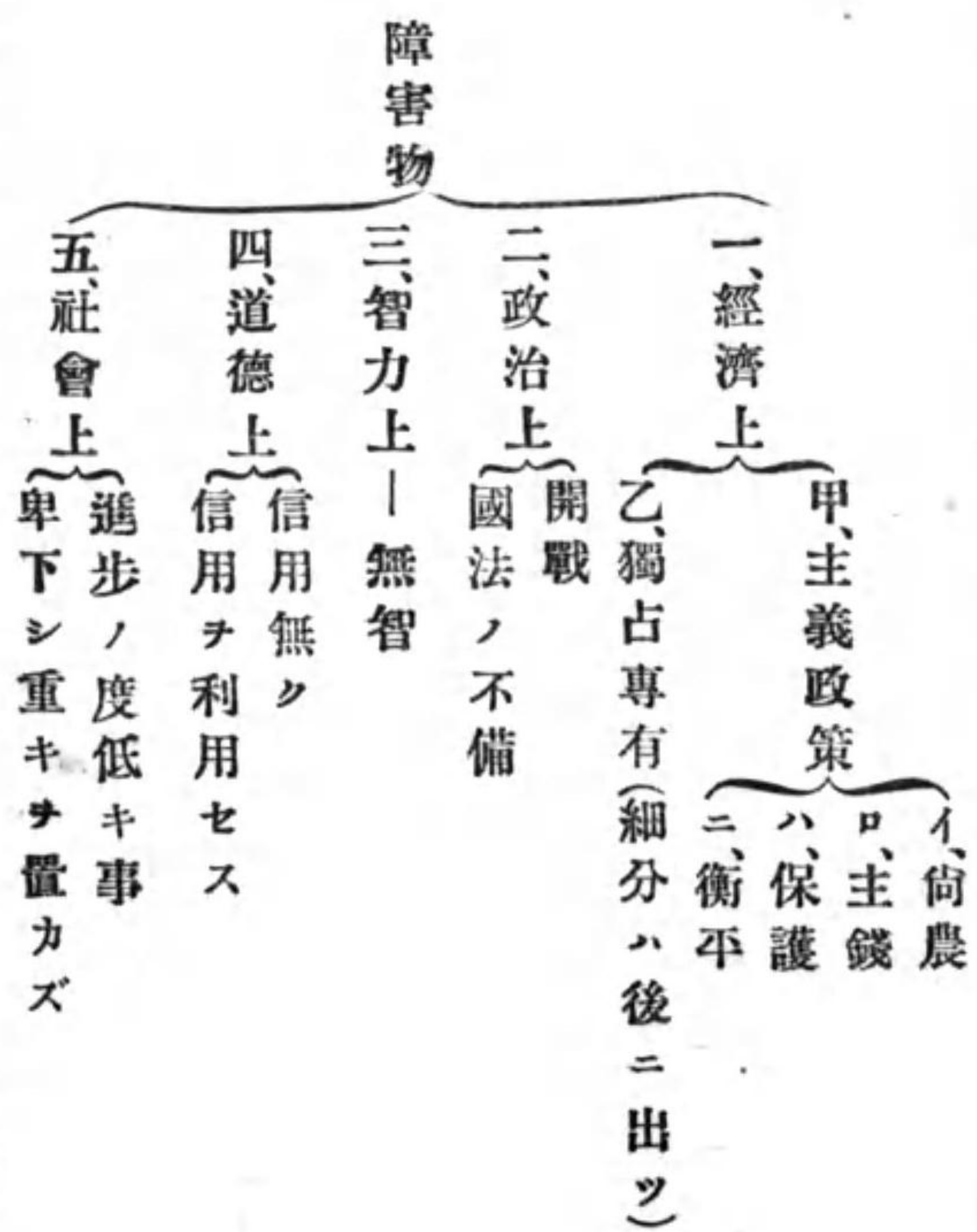


テ心神ヲ勞スル社會ノ有様トナリ多數人が資本家ノ永久奴隸  
 ヲル慘憺タル悲境ニ陥ルニ非サルカハ疑ノ存スル点ナリ或人  
 曰ハク此ノ疑ハ至當ノモノナリ一國鎖國主義ヲ取リタル時代  
 ニハ開港後ニ比シテ國人無形ノ快樂ヲ受ケシコト多シ何ソス  
 レゾ日本ハ鎖港主義ヲ廢シテ開港シ外物ヲ注入スルヤ何ガ故  
 ニ無形ノ快樂多キ鎖國時代ヲ棄テ、萬國ト交通シ一般弊習ノ  
 盤渦ニ引キ込マレタルヤ予ヲ以テ之ヲ見レハ日本ハ平和安樂  
 ナル仙境ヲ棄テ、苦艱ノ俗界ニ陥井リタルモノナリト是レ奇  
 言ニ似タリト雖トモ一考ノ價アランカ

### 第五章 外國貿易ノ消長

總テ外國貿易ヲ助ケテ隆盛ナラシムルモノハ之ヲ獎勵シ又衰

頽セシムルモノハ之ヲ除去セサルヘカラズ而シテ今之ヲ舊來  
 ノ經歷ニ徵シ大ニ論究スルトコロアラントス即チ其ノ障害物  
 ト幫助スルモノトハ左ノ表ニ示スガ如シ



自由貿易  
一、經濟上 物品ノ交換ノ便宜  
貨幣制度ノ均一

外交平和  
二、政治上 國法ノ完備

幫助スルモノ  
三、智力上 學理ヲ實業ニ應用

信用ニ富ミ  
四、道德上 信用ヲ利用ス

開明ノ域ニ進ミ  
五、社會上 尙ヒ重ス

第一節 外國貿易ノ障害物

外國貿易ノ障害

請フ先ツ外國貿易ニ障害ヲ與フルモノヨリ論ズヘシ  
一、經濟上ノ障害

經濟上ノ障害

經濟上外國貿易ノ發達ニ障害ヲ與フルモノハ先ツ經濟上ノ主

經濟上ノ主義

義政策ニシテ之ニ次グモノハ獨占專有ナリ  
甲、經濟上ノ主義政策

政策  
尙農說ノ實行

イ 尙農說「フヒヂヲクヲチツク、セチリ」ヲ假リニ譯スノ盛ニ  
行ハレタル時代ハ外國貿易上ニ不良ナル結果ヲ生シタリ  
何トナレバ此ノ主義ニ從ヘハ土地ハ萬福萬利ノ唯一本源  
ニシテ農ヲ尙ビ商ヲ卑ミタルハ勿論成ルベク農ヲ保護シ  
テ其隆盛ヲ計リタレドモ商事ハ之ヲ輕視シテ意ニ介セズ  
否却テ其進路ヲ妨ケタリ我國ニ於テモ經濟ノ談ト云ヘハ  
古來必ス農ノ事ナリシハ以テ尙農說ノ行ハレタルヲ知ル  
可シ佐藤信淵翁ノ如キハ實ニ尙農派經濟學者ノ一人ナリ  
トス是レ我國ニ於テハ人心又ハ實際ノ必要ニ迫マラレテ  
尙農主義行ハレタルナラン此ノ主義ハ商業ノ發達ヲ妨ゲ  
タル事實アリシト雖モ一概ニ今日ヨリ見テ惡シト云フ

主錢主義ノ實  
行

ベカラズ蓋シ此ノ主義モ昔日ノ時勢ニ應シ著明ナル利益ヲ與ヘタルコトハ誣ニベカラサル事實ナリ

ロ 尙農主義漸ク勢力ヲ失ハントスル時ニ當リテ起リタルモノハ主錢主義(マーカントイル、システム)ノ假譯ナリ)ナリ此ノ主義ニ據レバ金銀是レ富ニシテ只金銀ヲ取込ムヲ以テ得策トシ成ルベク輸出ヲ多クシテ輸入ヲ減ジ外國ノ金銀ヲ收入スルヲ以テ外國貿易上最良ノ政策トナシタリ此ノ主義ノ誤謬ハアダムスミス氏其富國論ニ於テ之ヲ詳論シテ餘ス處ナク主錢主義ノ今日全ク其根據ヲ失ヒタルハ尙農主義ノ比ニアラズ何トナレバ土地ハ金銀ト異ニシテ富ヲ産スル大元素ナレバ尙農說中今猶ホ取ルベキ者少ナカラザレハナリ

保護主義ノ實  
行

ハ 主錢主義破レテヨリ其變体现ハレタリ稱シテ保護主義ト

保護政策ノ論  
者

云フ此ノ主義モ亦貿易ノ發達ニ大ナル妨害ヲ與ヘタリ今保護貿易論者ノ揚言スルトコロヲ聞ケハ保護政策ハ一國ノ産業ヲ裝勵シ其富源ヲ開發スル爲メニ必要ナリト云フニ在リ然レトモ其實此ノ主義ノ結果ハ輸入ヲ減シ輸出ヲ増シテ外國ノ硬貨ヲ吸入セントスル主錢主義ト相ヒ距ルコト遠カラス保護政策ノ利害得失ハ政治及ビ經濟上ノ一大問題ニシテ今茲ニ詳論セズト云ヘドモ保護政策ガ其目的ヲ達スル事少ナク其利用少ナクシテ誤用多ク從テ外國貿易ニ障害ヲ與ヘタルコトハ免レサル事實ナリ

抑々保護政策ハ人爲ヲ以テ自由競争ヲ妨ゲ少數人ノ利ヲ計ランガ爲メニ多數消費者ニ損失ヲ與フルモノナリ然ルニ政治上ヨリ保護政策ノ必要ヲ説クモノハ曰ク凡ソ一國ニハ獨立ノ備ナカルヘカラズ凡百ノ物品ヲ常ニ外國ニ仰

衡平貿易主義

クトスレハ一朝外國ト罅隙ヲ生シタルトキニ當テ國人舉ゲ  
 テ飢餓ニ瀕シ必要ノ事物ヲ缺カサルヲ得ズ此クノ如キハ  
 一國ノ体面ヲ備フル所以ニアラズト然リ而シテ之レヲ經  
 濟上ヨリ觀察スレバ保護政策カ利害相償ハサルハ從前各  
 國ノ經歷ニ徴シテ明カナリ英國自由貿易策ヲ取リテヨリ  
 其貿易上ノ進歩ハ非常ノモノナリ故ニ保護政策ハ新國ニ  
 於テ産業獎勵ノ爲メ一時ノ政策トシテ用ユルハ止ムルヲ  
 得サレトモ永遠ニ之ヲ存スベキモノニアラズ要スルニ保  
 護ヲ與フル所ノ産業時期方法宜シキヲ得レハ可ナレトモ  
 多クハ過ツモノナレハ濫ニ之ヲ用ヒサルニ如カス  
 保護政策漸ク勢力ヲ失フニ當リテ其繼續者トシテ現ハレ  
 タルハ衡平貿易主義(フェアトレードノ意譯)ナリ此ノ主  
 義ニ由レバ彼レ自由政策ヲ取レハ我モ自由政策ヲ以テ之

獨占專有

乙、獨占專有

ニ當リ彼レ保護主義ヲ取レハ我モ保護政策ヲ以テ之ニ對  
 シ相互平等主義ニ由リテ貿易ヲ爲スモノナリ此ノ主義ハ  
 保護主義ト相ヒ去ル事遠カラズシテ貿易ヲ進ムルヨリモ  
 寧ロ之ヲ衰ヘシムルモノナリ

獨占專有

- 一、自然的
  - イ、他ヨリ優ルコト
  - ロ、比較ナキコト
  - ハ、衆好ニ適スルコト
- 二、脅迫的
  - ニ、法律上
  - ホ、政府干涉
  - ヘ、脅迫力

脅迫的獨占

一、脅迫即チ故造的ノ獨占專有ハ法律又ハ法律外ノ政府ノ  
 公權ニ由リ政府ノ力ヲ以テスルモノナリ其他暴力ナト

自然的獨占

チ以テ此店ノ品物ヲ買ハサレハ身体ニ危害ヲ與フベシト云フガ如キ是レナリ

二、之ニ反シテ自然ニ獨占專有ヲ有スルモノアリ即チ非常ニ優ル点アリテ他ヨリ競争ヲ得サルモノアリ又應舉探幽等ノ書ノ如ク他ニ同類ナキガ故ニ獨占專有ノ實アルモノアリ又コレ等ノ理由アラサルモ單ニ衆好ニ適シタル故チ以テ獨占專有ノ實アルモノ少シトセス

然リ而シテ脅迫的ノ獨占專有ハ非常ノ弊害アル者ナレトモ自然的ノ獨占專有ハ有益ノモノニシテ是レ最モ獎勵スヘキモノナリ又自然ノ獨占專有ヲ全クセンカ爲メ脅迫的ノ手段ヲ用非ルコトアリ百種ノ職人組合織物組合等ハ衆好ヲ失ハサランカ爲メニ設ケ一時政府ノ力ヲ加ヘテ專有ヲ保護スルコトアリ是レ自然ノ專有ヲ得ン

カ爲メナレハ害ナキモ自然的ノ獨占專有ヲ維持セントスルハ不可ナリ況ヤ又脅迫的ノ獨占專有ハ産業及ヒ貿易ノ進歩發達ヲ妨ルノ傾向アルニ於テチヤ蓋シ決シテ改良進歩ト並立スルモノニ非サレハナリ

政治上ノ障害

二、政治上ノ障害

政治上ヨリ貿易ヲ妨ケタルモノハ實際ニ就テ之ヲ云ヘバ戰爭ナリ戰爭ハ國際上ノ法文ニ由レハ實際商業ニ妨害ヲ與ヘサル様ニシテ之レヲ開クト云フ規定ナレトモ戰爭ヲ開キタルガ如キ危殆ノ場合ニ於テハ國際法モ空文徒法トナリ戰爭ノ起ルト共ニ社會紛擾ヲ極メ身体財産ノ保護行届カズ從テ改良進歩ヲ妨ケ管ニ國際商業ヲ妨クルノミナラス其影響ハ延テ内國商業ニ及ホシ通商ヲ攪亂スルコト少々ナラス何トナレハ戰爭起レハ今迄生産的ニ使用セラレタル資本モ戰費トナリ勵精ナル壯

丁モ皆兵士トナリテ其生産力大ニ減少スレハナリ之ヲ以テ佛  
 國人民ガ積年ノ怨ヲ報ヒントテ軍備ニ汲々トシ獨人モ之ニ備  
 ヘントソ一日モ安ンセズ今ニモ戰氛中央歐洲ニ漲ラントスル  
 一已ニ十有餘年ナルモ今ニ至ル迄開戰ニ至ラズ是レ兩國民共  
 ニ戰爭ノ爲メニ商業上ノ損失ヲ憂フルガ爲ナルヤ既ニ述ヘタ  
 ルカ如シ

法律不備

又法律ノ不完全ハ生命身体財産ノ鞏固安全ヲ妨クルモノナリ  
 生命身体財産ノ安全ナクンハ商業モ他ノ諸業ト共ニ進歩擴張  
 セス外國貿易ノ隆盛モ決シテ望ムベカラズ現今墨西哥ノ如キ  
 沃野千里際涯ヲ見スシテ隣國タル合衆國人民ハ收利ノ敏捷ナ  
 ルニモ拘ハラズ其事業ヲ企ツルモノアラサルハ畢竟其國ニ於  
 ケル生命身体財産ノ安全ヲ得ル能ハサルニ由ルノミ即チ之レ  
 ガ安全ヲ得ンニハ秩序アリテ有力ナル政府ヲ設ケ布クニ良政

智力上ノ障害

ヲ以テセサルヘカラズ良政府良政治ナク從テ生命身体財産ノ  
 安全ナラサル國ニ於テハ決シテ商業ハ振興セサルモノナリ

三、智力上ノ障害

智力上ヨリスレバ無智ナル事ハ大ニ商業ニ妨害ヲ與フルモノ  
 ナリ無智ナルガ故ニ活動セズ睡眠ノ有様ヲ以テ甘スルガ故ニ  
 商業發達セズ無智ハ變シテ邪說偏見トナリ遂ニ迷信ニ陥リ爲  
 メニ商業ノ發達ヲ妨クルコト少々ナラサルハ各國古今ノ歴史  
 ニ徴シテ明カナリ是レ活動力ノ乏シキコト及ヒ邪說迷信等ハ  
 常ニ改良進歩ニ反對シテ其進路ヲ妨ケントスルモノナレバナ  
 リ

道德上ノ障害

四、道德上ノ障害

道德ノ程度低クシテ信用行ハレズ又ハ信用ヲ利用スルコトヲ  
 知ラサルトキハ商業發達セサル可シ信用ナクンハ見本取引ノ

信用薄弱

如キモノ行ハレス一々現品ヲ運搬セサルヘカラス若シ斯クノ如クニシテ其貨物先方ノ意ニ適セス取引成立サルトキハ運賃損トナルヘシ之ニ反シ見本ヲ以テ取引ヲ爲セバ運送費ヲ省ク事ノミナラズ少量ノ見本ハ之ヲ廣ク諸方ニ配布シテ其商品ノ販路ヲ擴張スルヲ得ベシ貿易上信用ヲ利用スル者ト利用セサル者ト其要スル資本ヲ比較スルニ後者ハ前者ニ比シテ遙ニ多ク割合悪シキ事頗ル甚シキモノアリ例ヘハ米國ニ於ケル支那商人ガ日本商人ヨリ廉價ニ日本ノ雜貨物ヲ販賣シ日本人ヲ壓倒スルハ重ニ之ニ原因ス

外國貿易補助

五、社會上ノ障害

以上各種ノ障害物ヲ合シテ社會上ノ障害ト總稱スル事ヲ得ヘケレトモ尙ホ別ニ若シ社會進步ノ程度低ク野蠻未開ニテハ貿易盛ナラス又ハ其組織上外國貿易ノ如キヲ昇下シ之ニ重キヲ置

カサルトキハ人心之ニ向ハス發達隨テ遲緩ナルヘシ

第二節 外國貿易ヲ補助スルモノ

經濟上ノ補助

一、經濟上ノ補助

經濟上ニ於テ外國貿易ヲ助クルモノハ第一指テ自由貿易ニ屈セサルヘカラス保護貿易上ノ制限ハ大ニ外國貿易ニ妨害ヲ與ヘタリト云フト反對ニシテ自由貿易ノ制度ハ之ニ向ツテ大利益ヲ與ヘタリト云ヒテ可ナリ

萬國博覽會

尙ホ外國貿易ニ經濟的ニ利益ヲ與ヘタル者ハ千八百八十一年ノ萬國博覽會ノ如キ類ナリ凡テ物品ノ交換ヲ速カニシ各國ノ需要者ト密接セシメタルハ蓋シ大ニ貿易ニ利益ヲ與ヘタリ又各國貨幣ノ制度大ニ改良鞏固トナリタルハ大ニ其發達ヲ助ケタル者ナリ各國貨幣ノ制度モ漸次進ンテ一トナス如キ說アレバ此ノ說ニシテ果シテ實行ヲ見ルニ至ラハ今日ヨリ幾倍ノ利

貨幣制度ノ改良

政治上ノ幫助

益チ外國貿易ニ與フルヤ測リ知ルベカラズ今日マデニモ貨幣制度ノ改良ガ外國貿易ニ利益ヲ與ヘタルハ大ナリト云フベシ

二、政治上ノ幫助

外ニ向テ交際ヲ巧ニシ不和ヲ招カス内ニ在テハ善良ノ政治ヲ施行シ國民ノ生命身体財産ヲ安全ナラシムルハ外國貿易ノ爲メ極メテ必要ナリ又國法行届キ例ヘハ貨幣ノ制度ヲ鞏固精確ナラシメ度量衡ヲ確然一定ニシ稅關ノ手續ヲ簡易ニスル等ハ大ニ外國貿易ノ發達擴張ニ必要ナルモノナリ彼ノ國際公法及ビ私法ノ如キハ主權者ナキ法律ニ弱肉強食ノ世ノ中ニハ空文ニ類スト云ヘトモ又人類ノ道德心及ビ感情ニ訴ルノ一手段ナルカ故ニ之ヲモ活用スルニ如カス

三、智力上ノ幫助

智力ノ進歩ガ外國貿易ニ與ヘタル便益ハ至大ニシテ尙未來ニ

運輸交通ノ利

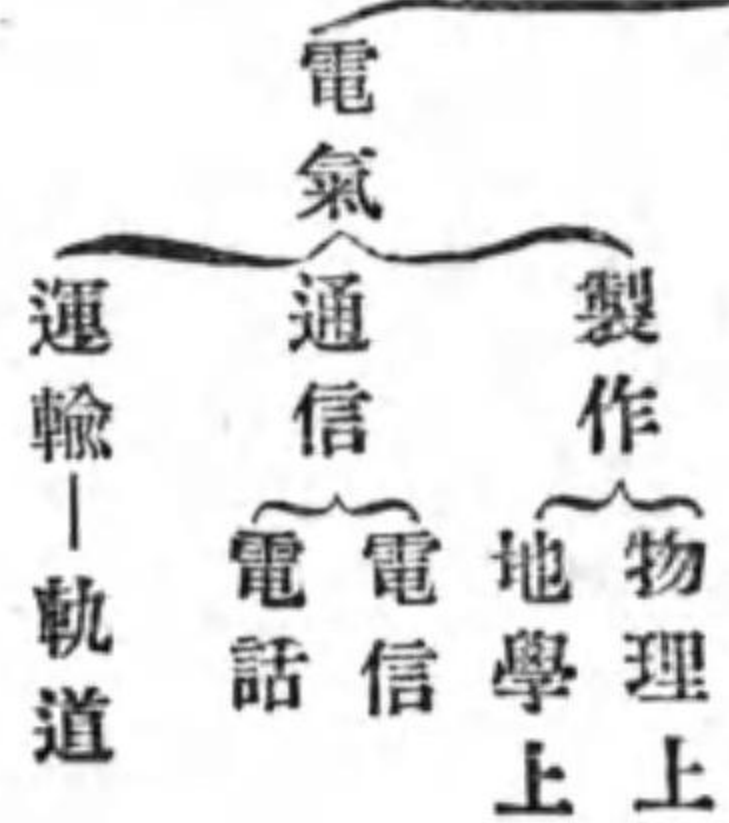
於テ與フルトコロノモノモ亦偉大ナルヘキハ測リ知ラレサルホドナリ彼ノ蒸氣力ノ發明アリテ之ヲ船舶ニ應用シ漸次進ムテ汽車及ヒ機械ニ適用シタルカ如キ貿易上ニ非常ナル便益ヲ與ヘタルモノニシテ他ニ比類ヲ見ズ昔時汽船ノ發明ナカリシ際ニ於テハ水運上唯風力ヲ藉リ數多ノ時日ヲ費シテ貨物ヲ運搬シ其ノ危險モ少ナカラズ又陸運ノ方ニ於テハ隊商カラバン、ツレードノ意ノ法ニ由リタルヲ以テ其運搬ノ遲緩ニシテ危險ノ多キ殆ト名狀シ難カリキ此ノ如ク運搬ノ速力遅ク且危險ク從テ運賃高キトキハ商業ノ進歩ヲ助クル能ハズ然ルニ今日ニ在テハ蒸氣力ノ應用自在ニシテ物トシテ之ニ應用セサルナク如何ナル遠隔ノ地モ短少ノ時日ヲ以テ運搬スルヲ得如何ナル大器械ヲモ容易ニ構造スベク又如何ナル多量ノ貨物モ自在ニ搭載スルヲ得可ク從テ幾多ノ危險ヲ避クルヲ得加之其運賃



非常ニ低落シタル如キハ一トシテ外國貿易ノ發達ヲ助ケサルモノナシ而シテコレ等ハ猶ホ駭々トシテ進歩シツ、アルモノナレバ其外國貿易ニ顯ハル、効益ハ非常ナリト云フベシ況ンヤ電信電話電氣鐵道ノ發明アリテ通信交易ノ便アルニ於テチヤシジグイク氏ハ運賃ヲ以テ商品ノ價格ヲ定ムル主物ナリト云ヘリ好シヤ運賃ハ商品價格ノ主物ナラズトスルモ其價ヲ定ムルニ大ニ與リテ力アルハ疑フベカラズ然ラバ交通運搬ノ便益ト共ニ運賃ノ低落ヲ來サバ從テ商品ノ價格ヲ低廉ナラシメ其販路ヲ擴張シ以テ商業ヲ發達セシムルハ少々ナラサルベシ今左ニ智力ノ進歩ガ製作通信運輸ヲ助クル有様ヲ表ニテ示スベシ



智力應用



道德上ノ幫助

四、道德上ノ幫助

商業社會ノ道德堅固ニシテ人々相ヒ信ジ相ヒ納ル、ニ於テハ信用行レ信用ノ利用ハ尙車軸ニ塗ル油ノ如ク大ニ資本ノ運轉貸借ノ融通ヲ圓滑ナラシムベシ外國貿易ニ於ケル外國爲替券ノ如キ全ク信用ニ由リテ行ハル、モノナリ然リ面シテ外國爲替ハ運搬ノ勞費危險ヲ省キテ賣買者ノ貸借ヲ完済スルモノナルガ故ニ外國貿易ニ至大ノ効益アルモノナリトセハ之ヲ發達

社會上ノ幫助

セシムル道德ノ進歩モ其效少ナカラスト云フベシ  
 五、社會上ノ幫助  
 人間野蠻未開ノ域ヲ脱シ各自睡眠無慾善キ意ノ慾ノ情態ヲ去  
 テ有爲活潑ナル運動ヲ爲シ勇進鼓舞シテ事物ノ改良進歩ヲ計  
 リ秩序ヲ以テ進ミ自カラ商業殊ニ外國貿易ヲ尙ヒ重スルニ至  
 レハ其發達ハ期シテ待ツ可キナリ

國際價格

下篇 附論

第一章 國際價格

今ヤ外國貿易ノ理論中ミル氏ノ所謂國際價格(インターナシヨ  
 ナルヴァリユー)ニ就キテ聊カ辨明スルモ決シテ無用ナラサルベシ  
 今①ヲ活動資本トシ②ヲ以テ商品ノ數ト假定セバ③ニ  
 ノ④ハ即チ商品ノ平均價格ナリ今例チ日英兩國間ニ取ランニ  
 外國債償還ノ爲メ日本ノ活動資本ノ英國ニ注入サル、并ハ日  
 本ニ於テハ資本ヲ減メ⑤⑥⑦トナリテ物價減少セサル  
 チ得ス又之レニ反シテ英國ニ於テハ爲メニ資本増シタレハ物  
 價上昇セサルヲ得ズ即チ⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒  
 ノ有様ハ決シテ永ク持續スヘキモノニアラズ英國ニテ物價上  
 ガレバ外國ヨリ安キ商品ヲ買入ル、ガ故ニ商品ノ増スト同時  
 ニ物價ハ必ズ元ヨリハ下落スルニ至ラン即チ㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛  
 ㉜㉝㉞㉟㊱㊲

①②ニタルニ傾クベシ而シテ其増加シタル物品ガ日本ヨリ輸出サレタルモノナルトキハ日本ニテハ品物減シ英ノ逆ニテ一旦低落シタル價格モ漸次恢復スヘシ又是ニ由テ之ヲ觀レハ實ニ競争自由ノ時代ニ於テハ國際ノ市價ハ常ニ平準点ニ向ツテ昇降スルモノト知ル可シ

第二章 損益ノ負擔

外國貿易ヨリ生スル損益ノ負擔

今外國貿易ニ於テ其貿易ニ從事スル邦國ノ受クベキ損益ノ多少厚薄ヲ生スル場合ヲ示ス可シ

- ① 英國ニテ生糸ヲ作ラスシテ作リ且ツ輸出サル可キ羅紗ノ高(反數ニテ)
  - ② ハ日本ニ於テ需要スル(日本ニテ作ル價ニテ)羅紗ノ高
- 第一ノ場合

日本 10羅紗②=20生糸 } 日英兩國ニ於ケル生糸羅紗ノ交換比例  
英國 10生糸 =10 ①

① = ②

右ノ比例ヲ以テ彼我交易ヲ爲セハ日本ハ其需要スル羅紗十反ヲ得ンガ爲メニハ生糸二十反ヲ輸出セサルベカラズ然ルトキハ英國ハ羅紗十反ヲ輸出シテ其代品トシテ生糸二十反ヲ得而シテ英國ニ於テ生糸羅紗ノ比例ハ十二對スル十ナレバ其差即チ生糸十反ヲ利ス日本ニ於テハ損益ナシ

第二ノ場合

日 10 ② 20 生  
英 10 生 20 ①

① = 2 ②

コノ場合ニ於テ日本ハ生糸二十反ヲ輸出シテ羅紗二十反ヲ輸

入シ得ルコトナレバ本國ニ於ケル生糸羅紗交換比例ニ比スル  
 差即チ羅紗十反チ利スルモ英國ニテハ毫モ利スル所ナシ  
 第三ノ場合

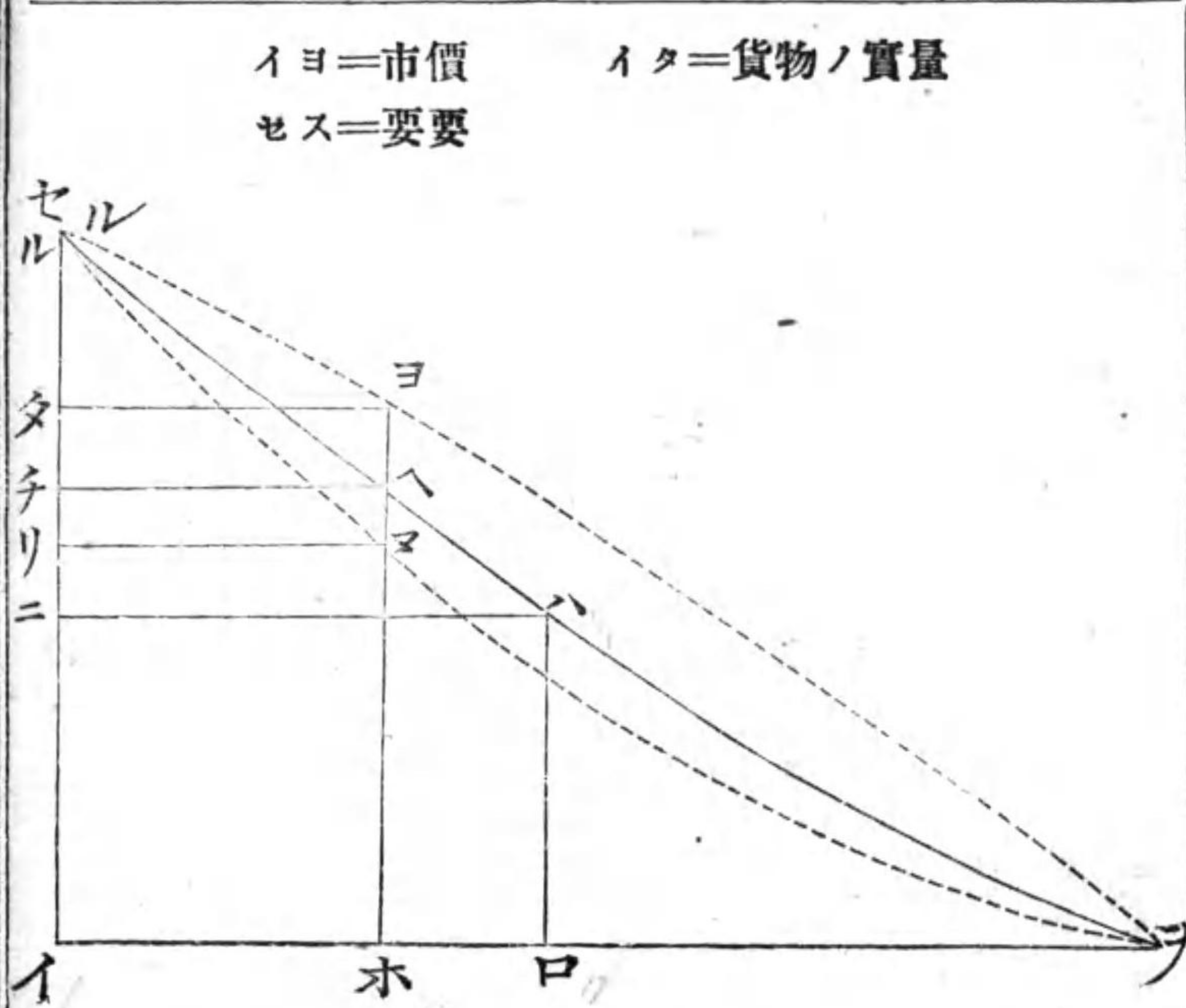
日 8 ⑤ 16 生糸  
 英 10 生 10 ④

④ ∨ ⑤ ⑥ ⑦ ∨ ⑧ ⑨

コノ場合ニ於テハ日本ニテハ羅紗十反ト八反ノ差則チニチ利  
 シ英ノ利ハ生糸十反ト拾六反ノ差即チ六反ノ生糸ナリ故ニ此  
 ノ場合ニテハ双方共ニ利益ヲ得ルナリ

第三章 賣價ト需要トノ關係及ヒ掛引

今供給需要線ヲ以テ國際價格ノ高低ヲ説明ス可シ



今需用供給曲線ヲ  
 以テ物價ノ高低ヲ  
 説明スルニ當リ簡  
 明ナラシメンガ爲  
 メ單ニ需要ノミニ  
 變動アリシトキチ  
 以テス可シ今物價  
 ①②ニ在リシモノ  
 減ジテ①③ニ下落  
 スルトキハ需要ノ  
 點上ガリテ當初④  
 ニ在リシモノ⑤ニ至

ルベシ然ルニ價ノ下カルト全時ニ全シ割ニ需要上ガラサル場  
 合ハ㉞㉟ノ……線ヲ以テ示シタル如ク㉞ニ於テ供給ト出逢フ  
 ベシ而シテ其販賣高ハ㉞㉟トナラン又㉞㉟ノ價ニ對シ㉞㉟又  
 タハ㉞㉟ノ如トク需要増ストキハ㉞㉟又ハ㉞㉟㉟㉟増シテ賣  
 ルコトヲ得ベシ然ルニ需要㉞ニ於テ止マルトキハ賣手ハ㉞㉟  
 高チ賣出ス能ハズシテ是非トモ㉞㉟ニ止マラサルベカラズ  
 凡ソ内外貿易ヲ問ハズ價格下落ノ需要少シク増スモノハ入用  
 ノ奢侈品例ヘバ煙草茶珈琲酒砂糖等ニソル㉞㉟㉟㉟線ニテ示ス  
 ガ如シ又價格ノ低減ト需用増加ト相ヒ伴フモノハ真正ノ奢侈  
 品美術品高尙ナル嗜好ニ適スル物等ニシテ㉞㉟㉟㉟線ニテ現ス  
 ガ如シ終リニ價下ガリテモ其需要割合ニ増サマル者ハ日用欠  
 クベカラサル必需品ナリ日用品ハ物價ノ高下ニ關スルモノニ  
 アラサレバ俄ニ需用増スモノニアラズ㉞㉟㉟㉟線ノ如シコレ等

ハ外國貿易ニ從事スルモノ、注意ヲ要スルノ点ナリトス  
 外國貿易ニ於テ利益ヲ得ント欲セバ買手ハ須ラク爭テ買フコ  
 トナキヲ要ス購買心盛ンナラバ買被ムルノ恐アリコハ學者間  
 ニモ議論アリシコナレト實際ニモ認定セラレ居ル事ナリ故ニ  
 我ニ贈買心少ナキトキハ買入レニ利アリ之ニ反シテ賣手ハ他  
 人ノ購買心ヲ勵マスコトヲ務メサルヘカラズ則チ一般ノ需用  
 ニ應スルコト必要ナリ例ヘハ生糸ニテ輸出センヨリモ各國ノ  
 嗜好ニ適スル様織物ヲ以テスルコト販路廣カルベシ生糸ニテ  
 送レバ之ヲ製造スルコト自由ナレバ販路廣キガ如シト雖トモ絹  
 織物ノ如キハ何所ニテモ製造スルコトヲ得ルモノニアラズ故  
 ニ各地各邦ノ需用者ヲ満足セシメンニハ其國民ノ風俗嗜好ヲ  
 察シテ製造輸出スルコト肝要ナリ  
 又輸出品ハ成ベク其分量ヲ少ナクシ以テ其價ヲ貴重ニスルヲ

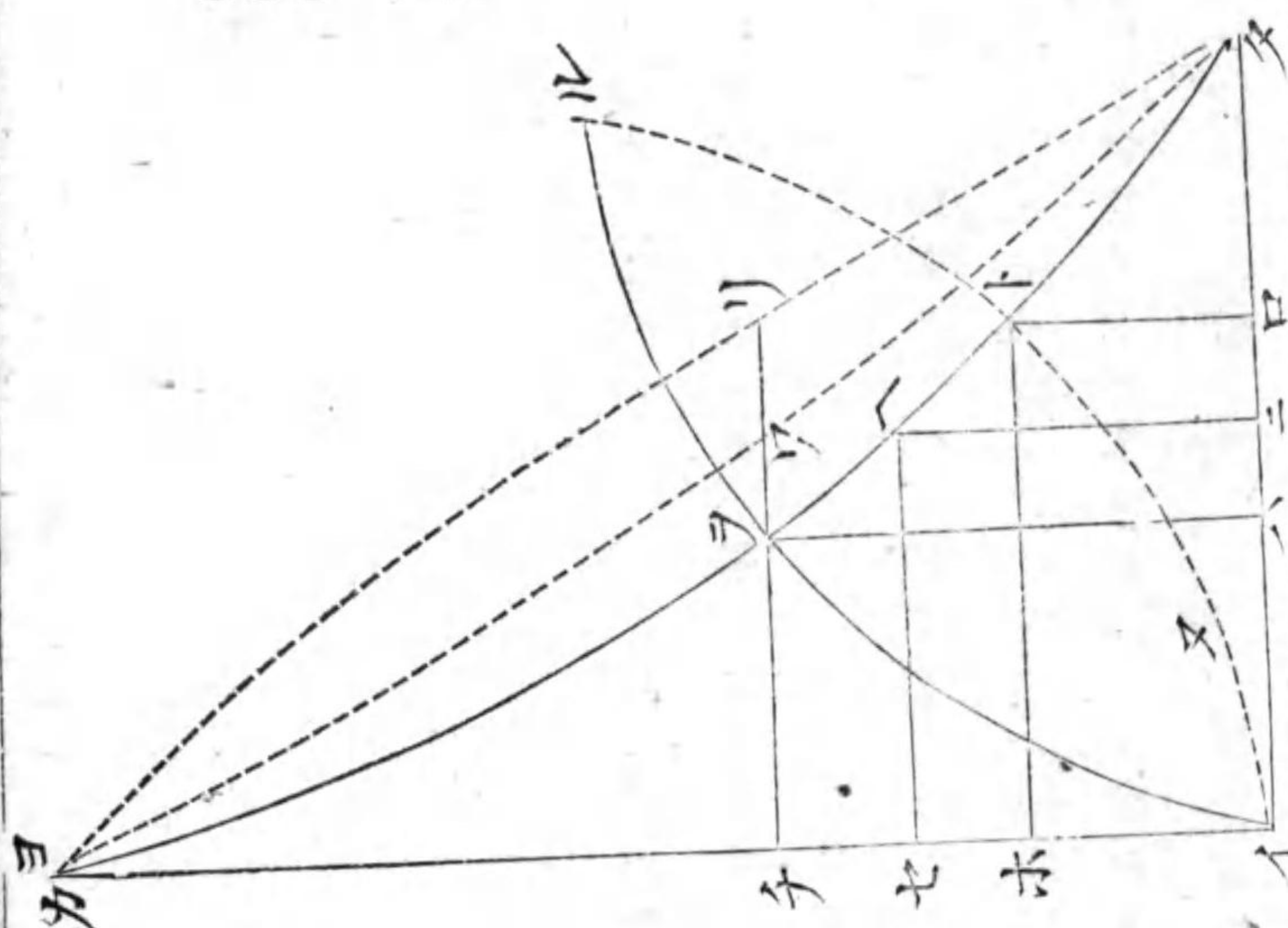
以テ利アリトス即チ粗製品ヲ輸出センヨリモ寧ロ精巧丈夫ナル製造品ヲ以テセンコト優レリ分量少ナケレバ其運賃ノ荷造費ヲ要スルコトモ從テ少ナケレハナリ由テ序テナカラ運賃ノ事ヲ左ニ論ス

第四章 外國貿易ニ於ケル運賃ノ負擔

外國貿易ニ於テ運賃ガ彼我ノ商人ニ及ボス利害ヲ解説スルニハ左圖ヲ以テス可シ今左圖ニ於テ①②ナル價格ヲ有スル物品ヲ外國ニ輸出シテ①②ノ價ニ賣ラントシテ其需用③トナレリト假定セヨ此ノ場合ニハ①②ニ相當スル額ヲ輸出スルコトヲ得ヘキモ①②ト③ハ賣レ殘ルベシ此ノ場合ニ於テハ運賃ヲ負擔スルモノハ輸出人ニアラスシテ輸入者ナリ

國際貿易ニ於テ運賃ヲ負擔スル者ハ誰ナルカ

①②ハ市價 ①③ハ數量 ④⑤ハ需要  
⑥⑦⑧ハ供給



然ルニ買手ニハ是非トモ①②額ノ商品ヲ要スルトセハ以上ノ如クニテハ③④ヲケ不足ヲ生セン即チ他ニ變動ナシトセハ其商品ニ對スル需要ヲ増スヘク需要ノ高ハ進ンテ⑦点ニ至ルベシ然ルトキハ運賃ハ買手ノ持トナリテ①②ノ貨物ヲ賣捌クコトヲ得ヘシ然レトモ

運賃ノ總額ヲ買手ニ負擔セシムレハ少シモ輸入商ニ利益ナケレハ輸入商ハ尙ホ此ノ上ニ幾分ノ價ヲ騰貴シテ之ヲ消費者ニ賣渡サヅルベカラズ從テ價モ①②トナルベシ然ルトキハ商品ノ賣口惡シク爲ニ其需要ヲ減スヘク然レハ畢竟輸出者ノ損ナル故結局輸出者モ運賃ノ幾分ヲ負擔スルトナリテ茲ニ始メテ貿易引續キ行ハル、ニ至ルモノナリ又需用増サヅルモ③④⑤⑥線ノ如ク供給減スルトキハ買手ハ争ヒテ買ヒ取ラントシ⑦⑧ノ價ヲ以テ⑨⑩ノ額ヲ買フニ至リ輸入者ハ運賃金額ヲ負擔セザルベカラズ之ニ反シテ需要大ニ減スレハ輸出者ニ於テ運賃全額ヲ負擔セサルベカラサルニ至ルコトアルヘシ然レトモ利益ノ一方ニ偏スル事業取引ハ常ニ永續スルモノニアラサレバ双方歩ミ合ヒノ姿トナリテ治マルベシ

參考表

第一表 各國ノ貿易總高

明治十六七年頃マルホル氏(甚タ精確ナリトハ云ヒ難キモ)ノ調ニ據レハ各國ノ貿易高ハ左ノ如シ但シ金額ハ磅(即チ我ガ金貨五圓)ナリトス

國名	輸入	輸出
大英	三九〇、〇〇〇、〇〇〇	二九六、〇〇〇、〇〇〇
佛蘭西	一九九、〇〇〇、〇〇〇	一四一、〇〇〇、〇〇〇
日耳曼	一六三、〇〇〇、〇〇〇	一六四、〇〇〇、〇〇〇
魯西	七一、〇〇〇、〇〇〇	七八、〇〇〇、〇〇〇
澳太	六二、〇〇〇、〇〇〇	七五、〇〇〇、〇〇〇
伊太	五一、〇〇〇、〇〇〇	四七、〇〇〇、〇〇〇
西班牙及ヒ葡萄牙	四一、〇〇〇、〇〇〇	三六、〇〇〇、〇〇〇
白耳義	六二、〇〇〇、〇〇〇	五四、〇〇〇、〇〇〇
荷蘭	八七、〇〇〇、〇〇〇	五七、〇〇〇、〇〇〇
瑞典及ヒ那威	三八、〇〇〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇、〇〇〇
土耳其等	四二、〇〇〇、〇〇〇	三四、〇〇〇、〇〇〇
歐羅巴合計	一、二〇六、〇〇〇、〇〇〇	一、〇一二、〇〇〇、〇〇〇

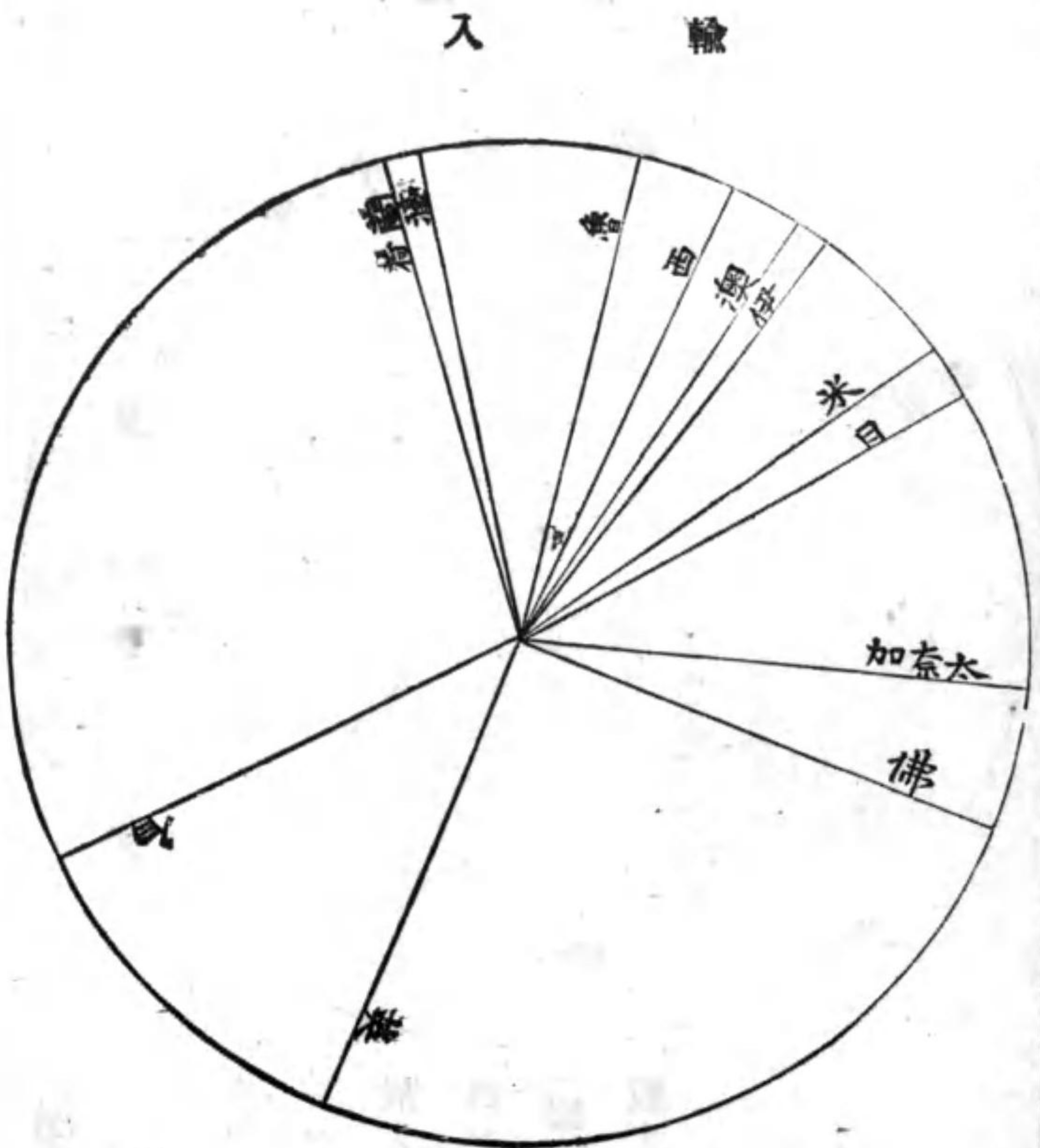
國名	輸入	輸出
合衆國	一四〇,〇〇〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇,〇〇〇
加太	二八,〇〇〇,〇〇〇	二一,〇〇〇,〇〇〇
濠太	六四,〇〇〇,〇〇〇	五二,〇〇〇,〇〇〇
南亞	六四,〇〇〇,〇〇〇	七四,〇〇〇,〇〇〇
南亞	九,〇〇〇,〇〇〇	九,〇〇〇,〇〇〇
印加	六六,〇〇〇,〇〇〇	八五,〇〇〇,〇〇〇
支那	二四,〇〇〇,〇〇〇	二一,〇〇〇,〇〇〇
日本	六,〇〇〇,〇〇〇	七,〇〇〇,〇〇〇
日	一二,〇〇〇,〇〇〇	一四,〇〇〇,〇〇〇
ヰ	七,〇〇〇,〇〇〇	一四,〇〇〇,〇〇〇
埃	六六,〇〇〇,〇〇〇	六七,〇〇〇,〇〇〇
其他	一,六九二,〇〇〇,〇〇〇	一,五二六,〇〇〇,〇〇〇
世界總計		



第二表 各國ノ貿易人口割

今マルホール氏ノ調ニ據レハ各國輸出入チ人口ニ割リ表示スレハ左ノ如シ但シ金額ハ「ミルリング」(即チ我が金貨二十五錢)數ナリ





### 第三表 連年外國輸出入總高

明治十四年マテハ第二統計年鑑以後ハ第三ノ示ヌ所ヲ左ニ掲ク但シ千圓位ニ止メ四捨五入トス

年次	輸 入	輸 出
明治元年	一五、五五三、〇〇〇、	一〇、六九三、〇〇〇、
二年	一二、九〇九、〇〇〇、	二〇、七八四、〇〇〇、
三年	一四、五四三、〇〇〇、	三三、七四二、〇〇〇、
四年	一七、九六九、〇〇〇、	二一、九一七、〇〇〇、
五年	一七、〇二七、〇〇〇、	二六、一七五、〇〇〇、
六年	二一、一四二、〇〇〇、	二七、六一七、〇〇〇、
七年	一九、三一五、〇〇〇、	二二、九二七、〇〇〇、
八年	一八、六一一、〇〇〇、	二九、三三三、〇〇〇、
九年	二七、七七一、〇〇〇、	二三、四七八、〇〇〇、
十年	二三、三三四、〇〇〇、	二七、〇六四、〇〇〇、
十一年	二五、九七四、〇〇〇、	三二、七五四、〇〇〇、

十二年	二八、一三〇、〇〇〇、	三三、一一九、〇〇〇、
十三年	二九、一〇六、〇〇〇、	三八、〇九九、〇〇〇、
十四年	三一、九七〇、〇〇〇、	三二、二三五、〇〇〇、
十五年	三九、五〇〇、〇〇〇、	三二、八四四、〇〇〇、
十六年	三八、五一六、〇〇〇、	三三、〇一五、〇〇〇、
十七年	三三、九八五、〇〇〇、	三三、一五六、〇〇〇、
十八年	三七、一四七、〇〇〇、	三三、七一〇、〇〇〇、
十九年	四八、八七一、〇〇〇、	三七、六三七、〇〇〇、
二十年	五二、四〇八、〇〇〇、	五一、七〇〇、〇〇〇、
二十一年	六五、七〇六、〇〇〇、	六五、四五五、〇〇〇、

第四表 我國ノ主要ナル取引國名及ヒ取引高

明治廿一年關稅局ノ調査ニ據レハ左ノ如シ但シ圓位ニ止ム

國名	輸	出	輸	入
北米合衆國		二二、六一八、四八三、		五、六四八、七三三、
佛蘭西		一三、六三六、二五〇、		四、一二五、一八九、
支那		一一、四二六、七一四、		一〇、三六〇、一三四、
英吉利		八、七一〇、〇一二、		二八、六九三、五六七、
獨逸		一、六一七、五六四、		五、二六〇、八九六、
英領亞米利加		八五七、三二三、		二五、一〇九、
朝鮮		七〇七、一七五、		一、〇四一、七六四、
伊太利		七〇五、九八八、		二〇〇、一三三、
濠洲		六三八、三九四、		二一八、七二三、
東印度		四五七、〇七八、		七、六八九、〇九二、
瑞西		三五五、九一四、		六五九、六〇七、

我國ノ主要ナル取引國名及ヒ取引高

我國ノ主要ナル取引キ國名及ヒ取引高

八八

澳地	二九六、〇五三	四九、七六五
露西亞	二八八、九八一	二三五、五四六
和蘭	九四四、八三三	一二八、二九〇
比律賓	六九、七〇四	二一三、一六八
白義	三〇、〇八三	五九六、一五九
暹羅	一六、〇二四	三五、六九五
布哇	七、七四二	一、八七一
土耳其	六、三八七	一〇一、二四八
秘露	無	二、〇三六
葡萄牙	八五〇	四、六九一
西班牙	七九九	一一、四〇九
丁抹	五三四	八五、一九〇
瑞典及諾威	四九一	一〇、三七九
其他諸國	一、二三七、五七六	五六、八三七
通計	六三、六八〇、六一三	六五、四五五、二三四

第五表 輸出入物品元價内外商別  
第八統計年鑑ニ據レハ左ノ如シ

年次	輸出入合計		百分比
	内國商	外國商	
明治二十一年	一二、三七	八七、六三	
同二十年	一二、四六	八七、五四	
同十九年	一〇、五八	八九、四二	
同十八年	九、一三	九〇、八七	
同十七年	一二、五五	八七、四五	
同十六年	一四、七三	八五、二七	
同十五年	一一、七五	八八、二五	
同十四年	一三、七一	八六、二九	
同十三年	一〇、六八	八九、三二	
同十二年	七、〇六	九二、九四	
平均	一一、六二	八八、三八	

表中、ハ一位ヲ示スナリ

八九

外國貿易論附論終

終